# ふるさと 霞ヶ浦を中心とした周辺地域)の歴史 文化の再発見と創造を考える





## 第135 (2017年8月)

## 風に吹かれて(11)

白井啓治

庭草はシムシムと音を立てて伸び盛る

時に夏がやってきて、雨の降らない日が続いた。まうのは例年の事であるが、今年は梅雨入りと同が宣言されると、いきなり梅雨の陽気に戻ってしッと雨の降るのを待っていたのだろう。梅雨明けった。

> 思うのは私だけだろうか。 会の不穏に連動しているように思うのだが、そう

負わねばならない。

人間社会の不穏と自然現象に相関関係があるか長のないのだから、その結果には自分たちが責任をが、多数決の原理から言えば、自分が選んだに違ない。直接自分が彼らに投票をしたわけではないないのだから、その結果には自分たちが選んだに違かないのだから、その結果には自分たちが遺んがあるかとうかは別にして、国のかじ取りをする政治家たりには、

今年は、参院選にくわえ、我が茨城県の知事選、今年は、参院選にくわえ、我が末城県の知事選がある。総理大臣と違い直接選挙、まので、選挙民の責任は国政以上に重大であり、は自分が選んだことになる、というお果責任のあというのは、自分が投票しなくても、時の当選者というのは、自分が投票しなくても、時の当選者というのは、自分が投票しなくても、時の当選者というのは、自分が投票しなくても、時の当選者というのは、自分が投票しなくても、時の当選者というのは、自分が投票しなくても、時の当選の話をせず、未来に向けた全体最適な話をして適の話をせず、未来に向けた全体最適な話をしてある。

あった。きっかけは、歴史の里と言っているにしの最初の活動が「民話ルネサンス講座」の講師でなどを多く目にするようになった。この地へきて最近、知人の輪が広がり、民話の朗読会の案内

然災害だとか草花の狂い咲きというのは、人間社が降り、大きな災害をもたらしている。どうも自

不穏な気配がする。南と北で、とんでもない大雨

ては、伝承民話があまりにもないことであった。ては、伝承民話があまりにもない。伝承されているだ民話が多くあるわけではない。伝承されているだ民話が多くあるわけではない。伝承されているだ民話があまりにもないことであった。

とはない。
されていくものであるが、知恵の核は失われるこされていくものであるが、知恵の核は失われるこも時代時代にマッチしたものとして変化して伝承内容が進化するもので、その進化に合わせて民話格らしの知恵とは、時の移ろいに連動してその

て暮らしの知恵の核を失っている。

本の都合に流されてしまうといえる。衰退、没時々の都合に流されてしまうといえる。衰退、没すことを忘れ、時々を刹那的、短絡的に思考し、暮らしの知恵の核を失うと、暮らしに知恵を働かれるいうことは、暮らしの知恵の核を失うことになる。

恵の核を持った地には広い可能性を志向する。一つの答えしか見ないものであるが、暮らしの知ている。暮らしの核を失った地は、何に関してもしてあり、大きな広がりを持った可能性を示唆しん承される物語には、暮らしの核が確りと内在

とに直結した活動と言える。 広い可能性を持った暮らしを創造しようというこるという活動は、暮らしの知恵の核を再発見し、求めるものといえる。地域の民話を発掘して、語、成承民話の発掘・再生・創造は、広い可能性を

を増す事になる。 われ、そういう積み重ねが益々消極性を増し、体 力も減退。ついには、ボケも増長し、 を無理して…と、逃げ腰になりがち。 歳を重ねると、 長い先が有るわけじゃなし。何 社会の負担 積極性が失

のギャップの大きさよ…。 事は、齢8ならその真逆?…。伸び盛りと衰退期 起きると、また強くなる…とも言われる。という 最近、将棋界、藤井四段 国民の大きな関心を呼んだ。十代は一晩寝て (4歳)の29連勝記録

るための一端を述べたい。 しかし、膵臓がんと悪性リンパ腫というダブルパ 病気にならない…と言って頑張ったという。 私は 没を防ぐ意味で、あえて筆を執り、 う大げさな意味ではなく、私自身の、グウタラ沈 え、今回は調子込んで社会一般に対する啓発とい た。しかし、心まで衰弱しては、もうお終いと考 ンチを喰らって、第一巻の終わり?と覚悟を決め 80歳までは定職を持って、張り切って仕事をした。 一方小林麻央さんは、病気になっても心までは 自分を鼓舞す

り必ず劣化し、老化する。しかし「心」は物質で ある程度避けられるはず…と考える。 はないのだから、気の持ちようで劣化も老化も、 肉体や脳は所詮物質なのだから、酸化などによ

それゆえ次世代に命のバトンタッチをして、永遠 NAという物質には、いわばこのような「魂」の の命を保とうとする。即ち、生命の根幹をなすD 耗し、劣化は避けられない。いつかは必ず果てる。 個体の命は、生命活動を継続すれば、いずれ摩

> 如きものが存在する。これが、 通した一貫性かと思う。 すべての生物に共

ければ、永遠に死亡する事はない。 も言える。しかし生命現象を継続していると、 物とはこの繰り返しにより、途中で事故に遭わな って新たな生命活動を継続する。即ち、単細胞生 の細胞分裂をして「初期化」し、2個の細胞とな あまり酷くならないうちに、リニューアルのため え単細胞と言えども、経年劣化は免れないので、 から「老化死」は存在しない。いわば永遠の命と さて単細胞生物は、 永遠に「生殖細胞」なのだ 例

過して、次のステップへと進む。 生して以来30億年間、長い単細胞生物の時代を経 生存する環境に応じて、色々な「種」に分化して いく。 今からおよそ 40 億年前、この星に生命が誕 こうして単細胞生物は、分裂増殖を繰り返し、

凡そ10億年前、仲間に食われないようにするため、 くして災難を逃れるように進化した。 2個の細胞が「接合」し、連合を組み、 取り込まれ、栄養にされてしまう。そこで今から 単細胞生物は、ウカウカしていると隣の細胞に 体を大き

葉も毒素を分泌して虫に食われまいとする。ヤブ 根から毒素を分泌し、周りのライバルを駆逐し、 らない現実の根源は、生命誕生の原点にまで遡る ど教育や社会組織が進化しようとも戦争がなくな 飛躍解釈かも知れないが、現在の人類が、いかほ こそ人類の真実と考える所以である。植物だって した生存原理なのであろう。それゆえ「性悪説」 の繁栄の基礎とする。これが全ての生き物に共通 とも言い得る。強い物が弱い物を餌食にして、己 現在の人類にも通じる「業(ごう)」の現実である。 「弱肉強食」の生物の生き方は、生命誕生以来、

> 延びようとする。 枯らしてまでも、 カラシは己が立ち上がる杖になってくれた植物を 太陽光を独占し、自分だけ生き

だけが生き残ろうとする現象を発見した。この毒 素こそ、多くの疾病から動物や人類を救った「ペ て周りのブドウ球菌等を殺して栄養を独占。自分 ニシリン」という「抗生物質」である。】 【1928年フレミングは、 青カビが毒素を出し

胞からなる。即ち「多細胞生物」の誕生で、 物は、こうして体を大きくし、人体は 6 兆個の細 何かしら空しく感じられる。なにはともあれ、生 は生命に満ち溢れる惑星へと発展した。 できないとすると、古の聖人君子の「金言」も、 それゆえ人類も弱肉強食の原則から逃れる事が

の大きな生物へと進化していった。 の攻撃から身を護る免疫職などに機能分担し、体 を摂取する専門職・それを全身に運ぶ運送業・敵 多細胞の「群体」は、それぞれ機能分担し、栄養 大型化して個体の安定化に発展していく。 すると さて接合した細胞同士は、更に合体を繰り返し、

細胞」へと分化していく。 命を継続させるための保護育成係を担当する「体 細胞」と、それを守り育て、成長させ、次世代に 更に細胞群は、生命を永続させるための「生殖

半分の「配偶子」となる。そして両者は、 分子がくっついたり、必要な分子が行方不明にな DNAのコピーミスや細胞分裂する時に、余計な より合体し、元の完全な1個体の出発点「受精卵 に鎮座し、DNAに書かれたプログラムにより、 (2n)」となる。これぞ新しい命の出発点である。 定年齢に達すると、「減数分裂」をして染色体は、 生殖細胞とは、女性なら卵巣に、男性なら精巣

しばしば存在する。ぐための生殖には、大きなトラブルを伴う事も、ったりして、しばしば異常児が生まれる。命を繋

され、寿命を迎えれば死が到来する。いう役目を終えれば、消耗品のように使い捨てにち我々「個人」であり、生殖細胞を継代させると生殖細胞を保護育成するこの体細胞の塊が、即

#### \*

これが「人生」というものに対する私の所感であ 考え続けてきた。メンタル面は別として、結局の る。家族や社会のあまり邪魔にならないよう気を の現実にソフトランディングするかにかかってい そこを各個人が工夫と改善で、いかにして劣化後 きていく以上、肉体や大脳の劣化は避けられない。 る。何と単純な唯物主義の見解…と言われるかも 様性が演出される。短絡的過ぎるかもしれないが、 ル面で、 の消耗品。諸行無常の原則通り。フィジカル面で 奉仕する事。用が終われば使い捨てにされる運命 ところ、人間とは、「生殖細胞」を産み育て、 かなる高邁な思想も恋心も誕生しない。人間は生 しれないが、物質である肉体や大脳なくして、い 人生を検索すれば、凡そこんな所。これにメンタ 代に無事バトンタッチするまで「体細胞」が勤労 「人間とは何か?」について、私は60 多くの悲喜劇が絡み合い、千変万化の多 もう少しこの世の空気を吸わして頂 年以上も

すれば、個体差がないので、全滅する可能性が大った。しかしそれでは、何かの伝染病などに遭遇「雌性生殖(=クローシ」で繁栄する生物集団であ機能を持つ生殖細胞の寄せ集まりであった。即ちさて、大型化した多細胞生物は、元来、「雌」の

クも、 変結構に見えるが、元々の雌性生殖に先祖返りす うに、浅はかな文明(目先の利益追求)は、洗剤など 性が発生する。即ち誰かが生き残り「種の継続性」 遺伝子を持った兄弟姉妹が生まれる。単胎動物な ずつを持ち寄り、新たな一個体を誕生させるシス 栄に水をさす事となる。この点、女性は、 どにより、生殖細胞の遺伝子に傷がつき、 知る。有性生殖が生み出した一見合理的テクニッ れば、果たして平和が訪れるかどうかは神のみぞ 日が、すぐ目の前に迫っている。オスがいなくな 程度に委縮している。この世からオスが消滅する 体は劣化し、メスを造る「X」染色体の10分の1 ある者はそれに対し非常に強い抵抗力を持つ可能 ある病原体に対して全く抵抗性を持たなくとも、 遺伝子が異なる多様性を持つ。すると、ある者は ッフルされ、一回の生殖で多胎動物なら、多様の テムを完成させる。すると、両者の遺伝子はシャ に創造され、生殖の時、 きくなる。そこで、「雄」の機能を持つ個体が新た より生殖は終了しているので心配ない。 れば人類の「業」である戦争が多分なくなり、大 生活に便利な化学物質により、オスを造るY染色 は保持される。しかし私がいつも繰り返し言うよ 数年おきに子を産み、兄弟姉妹はそれぞれに 特に男性は長生きすれば自然界の放射能な 雌雄両性が遺伝子の半分 種の繁

#### \*

地球表面積は限られているので、生殖能力のある色々問題が山積している。老人が増え過ぎれば、年の込んだシステムの開発により、一定の継続性、簡単に纏めたが、さて、「命」の継続については、簡単に纏めたが、さて、「命」の継続については、

どにより、抹殺される。ら孤立したり、運動能力も減退するので、天敵なは、生殖能力がなくなれば、普通老体は、群れか若者が生存する場所が狭くなる。自然界の動物で

和は現役時代、家畜改良増殖法に基づき、種雄和は現役時代、家畜改良増殖法に基づき、種雄ので、結婚を確定した。 国認定の改良された をかけると思い、私自身の精液も、結婚する前、 基礎家畜は、これら検査に合格したものでなけれ がならない。又、私自身の精液も、結婚する前、 基礎家畜は、これら検査に合格したものでなけれ がならない。又、私自身に不妊要因があったら迷惑 をかけると思い、徹底的検査を実施し、合格した をかけると思い、後に、 をかけると思い、後に、 をかけると思い、 ので、結婚を確定した。

#### :

強勢という改良のテクニックもあるが、逆に近親変優れた子孫が誕生する可能性も高くなる。雑種逆に非常に優れた性能の遺伝子が重複すれば、大重複し、明確に異常子が誕生する恐れが高くなる。、近親交配がいけない理由は、もしその系

も産業界では活用している。た系統(豚のローズポーク)を作出させるテクニック交配を重ねて優れた遺伝子を重複させ、益々優れ

老いてますます盛ん!などと、回春強化の、いるいな屋を早々に脱出して、どこぞの正義に満ちた、偽文明は人類の種の寿命を短縮させる事にないても受精は可能。だが、傷ついた遺伝子が子でいても受精は可能。だが、傷ついた遺伝子が子でいても受精は可能。だが、傷ついた遺伝子が子でいても受精は可能。だが、傷ついた遺伝子が子でいても受精は可能。だが、傷ついた遺伝子が子でいても受精は可能。だが、傷ついた遺伝子が子でいても受精は可能。だが、傷ついた遺伝子がみに著するのは、誠に困りもの。折角神様は、老いでますまでとさせないようにがある。俺さえ良ければそれでよいとする偽文明のため、偽文明は人類の種の寿命を短縮させる事にない。

に認定された事例以外は違反である。帯血移植など再生医療が応用されているが、法的また、若返りの秘策として、老人に新生児の臍

実に、定着させる事が重要と考える。生活習慣病を防ぐ為の日常生活を、若い時から確は、老化を進める高血圧・高血糖・動脈硬化など、老齢期でも健康を維持するために最も重要な事

\*

目が終われば、いわゆる消耗品同様。 体の生命は、生殖細胞の継代を守護する重大な役体の生命は、生殖細胞の継代を守護する重大な役生殖細胞の継代により今日まで何とか継続してきとか経済とか教育とかの「小業(こゎざ)」を使い、とか経済とか教育とかの「小業(こゎざ)」を使い、

どこにもないように見えるが、生物学的見解はそこのように見てくると、老人のいる場所など、

かの方法を産み出さなければならない。間の知恵を働かし、種の寿命を延ばすための何らうであっても、折角大脳を膨らましたのだから人

\*

大脳や肉体は老化すれば殆どの主題に戻ると、大脳や肉体は老化すれば殆どのを強ったいるようなものがあり、精一杯命を燃やしているように見える。まして人間は折角大脳を発達させたのに見える。まして人間は折角大脳を発達させたのに見える。まして人間は折角大脳を発達させたのに見える。まして人間は折角大脳を発達させたのに見える。まして人間は折角大脳を発達させたのに見える。まして人間は折性酸素などにより劣化し、老衰を迎える。上の好きな何事かに熱中し、「青秋?」を謳歌したと、大脳や肉体は老化すれば殆どの主題に戻ると、大脳や肉体は老化すれば殆どの主題に戻ると、大脳や肉体は老化すれば殆どの主題に戻ると、大脳や肉体は老化すれば殆どの主題に戻ると、大脳や肉体は老化すれば殆どの主題に表している。

の場合、6種ほどの遊びに夢中だ。目を輝かして飛び込める何かを早速定めよう。私するか。一族や世間に迷惑にならない、しかし、い時からの趣味を延長するか。新たになんぞ開拓い時からの趣味を延長するか?それは人さまざま。若

の地「熱帯」とはいかなる所かと常々思っていたの時、山麓に野生ルピナス満開のお花畑と、空を飛行機で着陸し、しみじみと氷河を踏みしめた。 長崎県普賢岳の火砕流。神戸地震によるに出た。 長崎県普賢岳の火砕流。神戸地震によるに出た。 長崎県普賢岳の火砕流。神戸地震によるに出た。 長崎県普賢岳の火砕流。神戸地震によるに出た。 長崎県普賢岳の火砕流。神戸地震によるに出た。 長崎県普賢岳の火砕流。神戸地震によるに出た。 長崎県普賢岳の火砕流。神戸地震によるに出た。 長崎県普賢岳の火砕流。神戸地震によるに出た。 長崎県・野生ルピナス満開のお花畑と、空を飛行機で着陸し、しみじみと氷河を踏みしめた。 といいかなる所かと常々思っていたの障害になった。 対抗の場が、人類の「遥かなる旅路」 好奇心の強かった私は、人類の「遥かなる旅路」

単なる年金生活者。大きな旅は難しい。
、スポートで駐留し、子豚を飲み込む大蛇「ボア」がスポートで駐留し、子豚を飲み込む大蛇「ボア」ので、JICAの国際協力事業で、中米に外交官ので、JICAの国際協力事業で、中米に外交官ので、

起こしができると思う。生き甲斐を見つけ、高齢者が目を輝かせる、地域用し、保育園と幼稚園を兼ねた、ミニ「保幼園」。更に発展して考えれば、おばあちゃん達の子育更に発展して考えれば、おばあちゃん達の子育

かは偏に人類の生き方に掛っている。球を命溢れる輝く星にするか、不毛の砂漠にするを、宇宙座標のいずこに設定できるのか。その地過ぎない。そしてこのチッポケな地球という位置来138億年の悠久の時に比べれば、本の一瞬に来の星に「生」を受けて八十余年。宇宙誕生以

おかしく、余生を送りたい。せめて心だけでも賑やかに、精一杯活発に、面白をし続けている。劣化しつつある肉体に鞭打って、(いぉり)。そこに悠々とはいかず、むしろ汲々と息地球の日本の茨城の石岡のささやかな我が庵

る。

## 茨城廃寺・舟塚山古墳方面(2)

#### 4、舟塚山古墳

にある前方後円墳である。 浜入江を望み、西には筑波の霊峰を仰ぐ景勝の地いてすぐである。舟塚山古墳は、南に霞ヶ浦の高いばらく行くと右側に駐車場があり、そこから歩東京方面から6号国道を右に曲がって高浜街道を東京方面から6号国道を右に曲がって高浜街道を東京方面から6号国道を右に曲がって高浜街道を東京方面から6号国道を右に曲がって高浜街道を



土品や墳形から五世紀後半からの築造とされてい稜(大阪府)などと共通する特徴を持っている。出後円部幅90m高さ11mの規模をもつ。仁徳天皇ら、豪族の墳墓とみられている。舟塚山古墳の墳この古墳は、東国第2位、県内で最大の規模を誇っ、豪族の墳墓とみられている。舟塚山古墳の墳の墳をがあり、その中で最ケ浦の両岸には多くの古墳群があり、その中では、およると共通する特徴を持っている。出版が、おいて、おいの方墳形があり、との中では、おいの方墳形があり、

では東日本で1番目がどこか、また日本でどのくらいの規模かを調べてみると群馬県太田市の太田天神山古墳で全長は10mで日本全体では27位田天神山古墳で全長は21mで日本全体では27位番目だという。さすがに関西が多く、1位は仁徳番目だという。さすがに関西が多く、1位は仁徳番目だという。さすがに関西が多く、1位は仁徳のを超えた古墳は東日本ではそれ程なく、かなりの豪族のものと考えて良いだろう。

る。 てしまっているので出来ないでいるように思われ 記の丘の有料資料館の中に展示されている。鉄製 木棺、 和47年に周辺の確認調査が行われ、円筒埴輪や、 地元には、多数の刀が出土したという伝えがある。 だが、現地に書かれた案内板には気になる記述が 舟塚山古墳本体の発掘調査はもうすでに盗掘され の刀剣などがこのころに使われていたことになる。 には沢山の古墳があり、古墳群となっている。昭 あった。「舟塚山の発掘調査はなされていないが る。これを裏付けるためには、内部を発掘すべき 国造「筑紫刀禰」の墓とする考えが強くなってい 和朝廷とつながっていたことが考えられ、茨城の さて、この時代にこの地を支配していた豪族が大 体どういうことなのか。この舟塚山古墳の周り 「入船」と呼ばれ、上からは筑波山が良く見える。 舟塚山古墳は霞ケ浦に漕ぎだすような形から しかし、全国で盗掘の被害がない古墳も少な 短甲、直刀、盾などが出土しこれらは風土

いようで、残念ながら舟塚山も被害にあっていると考える方が一般的なのだろう。 昔舟塚山の上は松林だったといいます。松くい虫でやられ、すべ松林だったといいます。松くい虫でやられ、すべですが削り倒して、今のような芝生で覆い、筑波山やでする。

## 国指定史跡「府中愛宕山古墳」(6世紀前半)5、府中愛宕山古墳



わりには家も密集している。「舟塚山古墳」と通りのすぐ反対側にあり、ま

前方部幅 57 m高さ 7. mの規模をもち、墳形は応ている。全長 96.5m、後円部径 57 m高さ 8. m、古墳が入船と呼ばれるのに対して、出船と呼ばれであり、霞ヶ浦に舟を乗り出す形なので、舟塚山市墳の北東 30 mに位置する前方後円墳

塚山古墳」(全長123m)とそっくりだ。 われる。古墳の形状は香取市にある「三之分目大 有名な愛宕山古墳 (全長 136.5m) があるからだと思 神天皇稜(ト阪府)に類似しているといわれます。 府中愛宕山古墳と名がついているのも、水戸に

香取市の大塚山古墳は5世紀半ば、 舟塚山古墳

何か時代が関係ありそうな気もする。 この府中愛宕山古墳は6世紀初め頃だという。

墳である 命の奥津城として伝承されており大変興味深い古 がある。 紀始めに築造されたといわれる丸山古墳 (全長55 石岡には他に八郷地区柿岡に 4 世紀後半~ 5 世 は見えない。 愛宕山古墳の上から舟塚山古墳が見えるが、 丸山古墳も嵩神天皇の第一皇子豊城入彦 昔はきっと見えていたことだろう。 m

#### 6、古代官道

されました。 崎遺跡では大規模な縄文時代の住居跡などが見つ かっている。 崎や中津川の遺跡調査も行われた。この調査で田 さて6号バイパス工事のため、ルートとなる田 また中津川では古代官道の跡が発見

連絡などに使われたのです。 これはかなり立派なもので、出来るだけ直線道と まった時に各国の国府をつなぐ官道が作られた。 して整備したようです。そして 16 kmおきに駅家 (うまや) をつくり、そこに馬を常駐させて都との 石岡は古代東海道の終点の都市だ。 ここ石岡が終点ではなく、東山道と しかし、これもその 律令制が始

> て各地でこの官道の遺構が発見されています。 結んで仙台までつながるようになりました。そし



(2009年秋公開)

中津川台地に見つかった古代官道の遺跡

うですが、今ではほとんど残っていないので、 当時は東京湾を舟で渡り、千葉の市原から市 うです。6 号国道のバイパス道を作るに当たって、 でしょう。海の水位が下がって陸地が増えてくる 我孫子の方から舟で高浜辺りまで来たこともある すのは容易ではありません。また、印旛沼の方や 名残をこの古代東海道と思ってしまう人が多いよ わり、今の6号国道に近い江戸時代の水戸街道の たと思われます。しかし、その後、 ケ浦を何度も渡りながらこの石岡 (常陸国府中) に来 通り松戸にでて、我孫子から東に曲、 とになり、遺跡の発掘調査が行なわれました。 落ができて、大昔の道も集落も廃れてしまったよ 石岡は古代遺跡の眠るところが道路建設されるこ 現在の国道に近いルートに変わり、そこに集 道は何度も変 布佐から霞 川を 探

> れる遺構は、 す。中津川遺蹟で見つかった古代官道の跡と思わ 道路工事に先だっての遺跡の調査では、 代からの遺跡や古墳群を貫く形となりました。 mに渡って見つかり一般公開されました。 6 号国道のバイパス工事予定区間は、旧縄文時 田島遺跡、 今の高浜街道に沿った畑の部分で 中津川遺蹟などが見つかっていま 187

が、私は古代東海道の遺構だと考えた方がよいの の遺構ではないかと書かれたものが多いようです 般には石岡から高浜へでて、鹿島へ向かう鹿島路 跡が残されていました。この古代官道が思わぬ方 のです。側溝には昔の人のものと思われる人の足 ではないかと思っています。 向に出てきて、解釈が分かれているようです。一 道路の幅は6 mで両側に側溝を持った立派なも

かあります。まさにその道筋にあります。でもこ 中津川(高浜)に渡ったと考えられる事象がいくつ すみがうら市にわたり、そして三村の方からこの ートも忘れられているようです。 道筋は途中から変わってしまい、 昔(今から千年くらい前まで)は美浦村から対岸のか 今ではこの

昔の高速道路」と考えればいいのでしょう。 この官道は、真っ直ぐに国府と国府をつなぐ「大

各遺跡の位置関係を見てみると、国分寺、 廃寺方向に現在の高速道路に沿って古代官道の跡 短に結んだようです。 遺跡の分布図などを見ると た古代官道としては鹿の子遺跡より水戸の台渡里 (五万堀古道など) 人のいる集落などとは関係なく、 鹿の子遺跡がほぼ一直線に並んでいます。ま が見つかっています。 出来るだけ最 国分尼

#### 7 古東海道の終点駅家

私が石岡の歴史に最初に興味を持ったのは「古本が石岡の歴史に最初に興味を持ったのか長度時が石岡小学校のところにあったことは知られば廃寺あたりではないかということと、常陸国の城廃寺あたりではないかということと、常陸国のはますが、律令制が始まって16 畑置きに設置されたという駅家(jsや)がどこにあったことでしまが、本分別の歴史に最初に興味を持ったのは「古地間わかりませんでした。



クワク通信」の2011年7月号の記事でした。 ま知られています)などは知られています。それを教も知られています。それを教いる市内の鈴の宮神社(天狗党の決起したところとして駅鈴に使われていた鈴を奉納したのが始まりと

り替わっていったのでしょう。

込まれて、道も霞ヶ浦の水上から徐々に陸路に切東山道に属していましたが、いつか東海道に組み武蔵国 (東京府中) は、最初は東海道の国ではなく、

います。以前にもすぐ前を通ったのですが、なぜ神」と「庚申塔」の石碑が2つぽつんと置かれて狭い裏通りの脇にあるわずかな空き地に「月読

こんな碑がここにあるのだろうとぼんやりと眺めただけでした。今は草が生い茂り、トンボがのんただけでした。今は草が生い茂り、トンボがのんただけでした。今は草が生い茂り、トンボがのんる。 号国道建設でこの辺りの高台は削り取られ、谷石岡駅付近から平等寺へ続く細い道があります。 も埋められてしまいました。近くには府中六井のも埋められてしまいました。近くには府中六井のも埋められてしまいました。近くにはんやりと眺めこんな碑がここにあるのだろうとぼんやりと眺め

江戸崎の方に道は続いてようです。 びんずるの谷津に月さす室ケ井の がんずるの谷津に月さす室ケ井の でわたり、対岸の出島を通るか、または美浦村や でわたり、対岸の出島を通るか、または美浦村や



## 民族芸能の話(3)

木下明男

タカクラ・テル先生から教えて頂いたお話しです。について紹介いたします。日本音楽の話も今回の民族芸能の話も、労音の中で学んだ(日本音楽の話)に次いで、(民族芸能の話)

和は昭和40年代、品川区の大企業 (NIKON) で働いていました。会社に入社した頃は、1960年の安保闘争の真っただ中でした。持っている諸要求を実現させ、明るく働ける職場になっていました。諸々のサークル活動も盛んでした。私も其の頃先輩から誘わた。諸々のサークル活動も盛んでした。私も其の頃先輩から誘わた。

それから間もなく、組合弱体化政策の一環として、新賃金制度(会社職制の強化)導入が計られ、組合の分裂策動が行われました。会社側の組合分裂策動により、人間関係や様々な愛憎を経験た。会社側の組合分裂策動により、人間関係や様々な愛憎を経験した。北海道函館労音との交流会に参加したのもこの頃で、生涯をかけて音楽運動に参加するきっかけにもなりました。そして、をかけて音楽運動を進めるのかの勉強が始まります。そんな時何のために音楽運動を進めるのかの勉強が始まります。そんな時に学んだテキストから…。

## (3)日本民族の成立過程

6。 封建制には三つの代表的な危機があったと思われ建制の危機の発生と深い関係を持っている。日本が民族形成の基礎条件だとすれば、当然それは封が民族形成の基礎条件だとすれば、当然それは封財建制度の中で資本主義的要素の発展すること

- 一室町時代の中期以後
- 二 江戸時代の中期以後
- 二 明治維新時代

第一の室町時代の中期以後の危機は「山城の国

一揆」が代表している。農業生産の発展、科学の一揆」が代表している。農業生産の発展、科学の一揆」が代表している。農業生産の発展、科学の一揆」が代表している。農民一揆がこのような力を持つな力を発揮した。農民一揆がこのような力を持つな力を発揮した。農民一揆がこのような力を持した。農民一揆がこのような力を発揮した。農民一揆がこのような力を発揮した。農民一揆がこのような力を持した。農民一揆がこのような力を持つな力を発揮した。農民一揆がこのような力を持つな力を発揮した。農民一揆がこのような力を持つな力を発揮した。農民一揆がこのような力を持つな力を発揮した。農民一揆がこのような力を持つな力を発揮した。農民一揆がこのような力を持つな力を発揮した。農民一揆がこのような力を持つな力を発揮した。農民一揆がこのような力を持つな力を発揮した。農民一揆がこのような力を持つな力を発揮した。農民一揆がこのような力を持つな力を発揮した。農民一揆がこのような力を持つな力を発揮した。農民一揆がこのような力を持つな力を発揮した。農民一揆がこのような力を持つな力を発揮した。農業生産の発展、科学の一揆」が代表している。

高利貸を相手とする「徳政一揆」では、指導さえ二 商人 ([納屋衆」=倉庫の持ち主) も一揆に参加し、働者の「馬借」や「車夫」が農民一揆を支持。 一 馬や車で食料を運ぶ原始的な交通運輸労

「山城・国一揆」(1485年)では、近江の坂本「山城・国一揆」(1485年)では、近江の坂本にの東京である「惣」を基礎に、国人の代表「三国政はそれまでの守護に代わって、国人自身が行義就、畠山政長の軍隊を一切国内から撤退させ、もしています。こうして、15才から60才までの全しています。こうして、15才から60才までの全しています。こうして、15才から60才までの全しています。こうして、15才から60才までの全しています。こうして、15才から60才までの全しています。こうして、15才から60才までの全しています。こうして、15才から60才までの全地に守護・畠山の支配を打倒しました。日本に大力がある「惣」を基礎に、国人の代表「三人の大力を関係を表現して、1485年)では、近江の坂本には、1485年)では、近江の坂本には、1485年)では、近江の坂本には、1485年)では、近江の坂本には、1485年)では、近江の坂本には、1485年)では、近江の坂本には、1485年)では、近江の坂本には、1485年)では、近江の坂本には、1485年)では、近江の坂本は、1485年)では、近江の坂本には、1485年)では、1485年)では、1485年)では、1485年)では、1485年)では、1485年)では、1548年)は、1548年)がは、1548年)がは、1548年)では、1548年)がは、1

夜明けが始まりました。 は日本最初の民主主義制度で、近代日本の偉大な武士を国内へ入れませんでした。まさしく、これ

中に民族的要素を発展させられる道が開かれた。 語も漸く民族語として統一される可能性を生み、 国の交通を一層大きく発達させた。それを通じて、 堺の町人の伝統的な反抗性を受け継いだものです。 準備をしたので、信長も遂に手を出せませんでし 武士の支配を撥ね退け、町人の民主的な代表であ れる当時の封建制の指導者たちは、この危機を切 民族体を民族として統一発展させるための、非常 資本主義要素が大きく発達するところから生まれ このように日本封建制の第一の危機は、その中に 各地方の土俗的な文化も、互いに交流して其々の 極端に違う方言として各地方に分散していた日本 国商工業の発達を促し、益々資本を蓄積させ、 休が堺から出て秀吉に従わず、遂に殺されたのは、 ろに起源があったのでしょう。茶の湯の元祖、 と言う言葉を使い、命がけで茶を飲み回したとこ た原因になった。今でも茶の湯では「一期一会」 味同心を誓った。これが後の堺に茶の湯が生まれ た。これら町人は、同じ茶碗から茶を飲み回し一 には、町の周りに堀を巡らし、信長の軍隊と戦う 織田信長の矢銭(軍資金)の請求をを断固拒んだ時 の支配と戦うには、武士の軍隊と戦います。堺が る「地下請」(年寄)の指導で町政を行った。 す直截の原因となった。これらの自由都市では、 に重要な役割をした。信長、秀吉、家康に代表さ な影響を与え、堺・平野などの自由都市を生み出 このように武士の支配が弱まった事は、一層全 農民一揆の成功は、都市の町人(資本家)に大き 武士 利 全

> 出来ないと言っている。 多くしてきた事実を歴史的に上げ、食えなくなっ 政が苦しくなって農民から取り立てる年貢を段々 できるかと聞かれ答えたものです。宣長は藩の財 揆が起きるか、どうしたらこれを防ぎ止める事が の藩主・徳川治貞から、どうしてこんなに農民一 代の特色を最も良く伝えている。この本は、紀伊 商人の男女の心中が全国に流行する悲劇を生みま 替え金の含有量を少なくした事は、インフレを生 財政を賄う事ができない状態にありました。この 担保にしてこれらの町人から借金をしなければ、 発達したことから生まれてる。全国の経済の実態 国」によって外国との通商を禁じ、人民に一層野 編成し、資本主義の発展を防ぎ止めるために、「鎖 本居宣長の「秘本・玉くしげ」と言う本はこの時 宗吾の名は、農民の英雄として全国に伝わった。 んで中小商人を破産させ、反って経済を混乱させ 危機を切り抜けるために、貨幣(慶長小判)を吹き 金持ちの町人に握られ、幕府も、藩も、 は江戸の「札差」や大阪の「倉持」に代表される 危機も、 蛮な弾圧を加えた。 江戸時代の中期以後の第二の た農民が一揆を起こして反抗するのは避ける事が した。農民一揆も全国に絶え間なく起こり、佐倉 層危機を深めました。その結果、絶望した中小 封建制の中に一層大きく資本主義要素が 年貢米を

「鎖国」を厳しくし、農民や町人の生活を引き下礎が一層発達した。封建制の支配者たちは、一層交通は益々発達した。こうして、民族的統一の基よって、国内市場は単一市場の方向へ大きく進み、よって、国内市場は単一市場の方向へ大きく進み、この第二の危機には、資本は一層大掛かりに集

り抜けるために、中央集権制を強めて封建制を再

かった。
がるために、野蛮な弾圧を加えたが殆ど効果がな

第三の危機の明治維新については、詳しく述べい。

#### が現か

伊東弓子

寝つけなかった。
この苦しさを知ることもないだろう。それからはてしまった。十六夜の月明りは目に眩しかった。たろうか、寝ついて一時間ちょっとで目を覚まし耳に纏わりつく蚊の鳴き声か、暑さの所為であっすの夜は、この夏一番の蒸し暑さだったろうか。

の情景がいやおうなしに浮かんできた。り仰向けになってみたりしたが、一向に眠れない。うとうとしたかと思うと、プ~ンと耳元に響く。うとうとしたかと思うと、プ~ンと耳元に響く。うとうとしたかと思うと、プ~ンと耳元に響く。りのだろう。大群か…など考えていると、あの日かのだろう。大群か…など考えていると、あの日身の置き場がなく、右に左に横になり、伏したりの情景がいやおうなしに浮かんできた。

で浅っている場所だ。 現風景とは思えない、夢うつつの中で見た思い

それは十年以上も前になる。ともに誘われて行で残っている場所だ。

っとり眺めていた。でもり眺めていた。その後の気味悪い話など想像もせず、うだった。その後の気味悪い話など想像もせず、うった美しさの中に自分がいるのを強く思った一瞬だ。松並木の続く参道は今までには感じられなかだ。と明いた、父親が出た故郷だと聞いた。土地の名った所で、父親が出た故郷だと聞いた。土地の名

いう昔語りを始めた。
を察してか、友は答えるように子供の頃聞いたとで、水の色も異様だった。私が異様さを感じたの擂鉢状の砂地の中に水を湛えている様子も不気味擂鉢状の砂地の中に水を湛えている様子も不気味

では、 では、 では、 では、 でいて、 でいる使用人は大勢で、対照的に貧し が家々が立ち並んでいる様子は、この時代の当り い家々が立ち並んでいる様子は、この時代の当り い家々が立ち並んでいる様子は、この時代の当り が家々が立ちがあるでいる様子は、この時代の当り でいた。その可愛がりようは異常さを感じるものだ がた。その可愛がりようは異常さを感じるものだ がた。その可愛がりようは異常さを感じるものだ がた。その可愛がりようは異常さを感じるものだ がた。その可愛がりようは異常さを感じるものだ がた。その可愛がりようは異常さを感じるものだ

では、 では、 では、 では、 で大人相手の生活だったという。女の子の とない。使用人の子供たちとの交流はさせず、広いない。使用人の子供たちとの交流はさせず、広い を熟内で大人相手の生活だったという。女の子の はになり美しさも評判になり主は自慢半分心配も 娘になり美しさも評判になり主は自慢半分心配も はて引き裂き、行商人と一緒にやって またことの交流はさせず、広い とて引き裂き、行商人と共に帰してしまった。

たちが帰ってこなくなったり、子供が行方不明にって死んだ。男たちばかりでなく。町へ行った女ー仕事をしていて怪我をした。木の下敷きにな

始まったという。

かと、友の話を聞いていた。あの屋敷の豊かさは、山仕事をする大勢の男たちと、家族に支えられていたのに、主は男たちの家族の暮らしを大切にしてきたか、その人達の扱家族の暮らしを大切にしてきたか、その人達の扱いがこうなっては主もどうする術もないのでないかと、友の話を聞いていた。

想像すると、何と表現したらよいだろう。 想像すると、何と表現したらよいだろう。 が這い出し、数が増え波がうちよせるように広が が這い出し、数が増え波がうちよせるように広が とでったという。泣き声が絶えて久しい。周囲では だったという。泣き声が絶えて久しい。周囲では にったという。泣き声が絶えて久しい。周囲では は蔵の座敷牢に入れられ、昼夜泣く声があち

近隣の草木を喰い散らし通り過ぎて行った先は近隣の草木を喰い散らし通り過ぎて行ったという。一なおこんな景色よ、と生えなくなったという。一つなおこんな景色よ、と後、丸裸になっていたそうだ。その後、草も木も後、丸裸になったいたそうだ。その後、草も木もでが、

をした思いで立っていた。の姿を映し、次々にかき消していく。私自身は禊の姿を映し、次々にかき消していくのか。初夏の木立に流れていく。清らかな水だった。どこから流れがわかる。水の音がする。大岩盤の上を滑るようがわかる。水の音がする。大岩盤の上を滑るようがしたとりていくと少しづつ木立が増えているの山を下りていくと少しづつ木立が増えているの

私を嘲笑うかのように、桎梏次から次へとやってが大群となって私を悩ましたのだろうか。眠れぬ旅先で聞いた蛆の不気味さと、寝苦しい今夜の蚊これから何処へ行くのかと思ったのを覚えている。遠い過去から現実に戻ってきたあの時、私って

を月は見ていただろうか。かった。人の世の怨念が起こしたあの山の出来事かった。人の世の怨念が起こしたあの山の出来事くそして聞こえなくなっていったのは、明け方近きて、耳元で鳴き、悩ました蚊の声も遠く、小さ

がぬけていた一日だった。の日の予定は消化した。それでも気が入らない力の日の予定は消化した。それでも気が入らない力

## 県指定文化財(24)

兼平智惠子

た。 いて、第一回全国看板建築サミットが行われましいて、第一回全国看板建築サミットが行われまし、去る七月十六日 (日)、石岡地区中心市街地に於

がありました。暑い中にも関わらず二○○人余りの皆さんの参加プを見ながらの看板建築群の街並みを巡る。蒸し一年前十時より、まちなか散策が開始され、マッ

模様のコテ仕上げの素晴らしさに驚嘆の声。また六十代の主婦は、看板建築に施された繊細なんは歴史に触れ、何かの役に立ててくれればと。笠間からの四年生の女のお子さん連れのお父さ

る。を取り付けたように見えるところから呼ばれてい装飾した看板のようになっており、おおきな看板築は、洋風の商店建築の事で、木造建築の壁面が築は、洋風の商店建築の事で、木造建築の壁面が

もてなし感激でございました。有難うございまし

るようになりました。 
の建物が消失、石岡でも看板建築が多く建てられ 
岡の町を火の海に包み込んだ大火災により、多く 
行した建築様式である。昭和四年(1929)に石 
大正十二年の関東大震災後の復興期の東京で流

東京で左官職人として修業し、石岡の商家の婿 東京で左官職人として修業し、石岡の商家の婿 東京で左官職人として修業し、石岡の商家の婿 東京で左官職人として修業し、石岡の商家の婿 東京で左官職人として修業し、石岡の商家の婿 東京で左官職人として修業し、石岡の商家の婿 東京で左官職人として修業し、石岡の商家の婿 東京で左官職人として修業し、石岡の商家の婿 の街並みが形成されたのでした。

ていました。

「一般は一時より石岡市民会館にて看板建築の名でいました。

「一般は一時より石岡市のパネリストによるパネルディスカッショ庫県豊岡市、長野県諏訪、埼玉県川越市、そして指したまちづくり」と題して、青森県八戸市、兵指したまちづくり」と題にて、青森県八戸市、兵治にまちでは一時より石岡市民会館にて看板建築の名

ります建築のご丁寧な説明と冷たいお飲み物のおります建築のご丁寧な説明と冷たいお飲み物のおび人が住み、「昭和のはじめのレトロな看板建築通の寛大なお心によって空き家になっている所に再の寛大なお心によって空き家になっている所に再の電とんどが借地の上に建つという、地主さんそのほとんどが借地の上に建つという、地主さん

○柿岡からくり人形 無形民俗 本題の県指定文化財紹介に入ります。

類例のない特殊なものといわれ、今は亡き初代会からくり人形の山車は、茨城県内でもまったく指定(昭和三八・八・二三)

化財に指定されました。もって昭和三八年八月二三日に茨城県無形民俗文長、小倉発一郎さんをはじめ町内各位のご協力を

に工作する。 に工作する。

「くらり人形」を下げる。 横木の下方 40 四程度の位置に更に横棒をつけ

の操る綱によって動作を演じる。 矢車拍子といわれる太鼓の音に合わせ、それぞれ三体の人形は、唐人の頭髪と衣服姿で身を飾り、

を表現している。
がずに暮らしていれば、見る間に使いはたしてしまう)の意味がずに暮らしていれば、見る間に使いはたしてしまう)の意味「座して食えば山も空し」(山のように財産があっても働ことわり人形は、扇子を右手に持って正座し、

て歩く情景は、他の山車には見られない気品と誇な太鼓の音にあわせ、ゆったりと人びとに引かれー国伝来のからくり操作人形の山車が、のどか

りがうかがわれます。

と言うことでとても残念でした。いと二二日行きました所、二三日のみのお出ましれました。今年こそ是非からくり人形を拝観した一今年の柿岡のおまつりは七月二二・二三日行わ

いました。 説明と資料をご提供頂きました吉田様有難うござ ぶしつけにお伺いしたにもかかわらず、詳しい

不岡七月一日号※参考資料 歴史散歩柿岡からくり人形、八郷の文化財、広報

## 深録に包まれて吹割の瀑布たおやかに 智惠子

## 発生石の伝承

小林幸枝

石」の伝説について紹介しましょう。かけてみようと思っているが、調べてみた「殺生木県那須町の「殺生石」が出ていた。夏休みに出どこへ行ってみようかと思い、調べていたら、栃どステリースポットを訪ねるのが好きで、次に

言われています。の伝説を残す、日本最強のミステリースポットとが木県那須町にある「殺生石」は、昔から多く

定の石を「殺生石」と名付けたと言います。から、昔の人は石に宿る悪霊の仕業と考えて、特の場所で人や動物・鳥が有毒ガスで死亡したこと酸ガス、砒素などの有毒ガスが噴出しており、こ殺生石の謂れは、この周辺は、硫化水素や亜硫

して広まったのでした。なかでも有名な話は、浄そこにいろいろな話が付け加えられ、恐怖の石と目に見えぬ最強の悪霊として話が広まるに従い、

狐の物語です。 瑠璃や歌舞伎で人気の玉藻の前と白面金毛九尾の

れた話です。
龍愛された皇后美福門院の話を抱き合わせて創らたぶらかし悪行を働くという物語に、鳥羽天皇にたぶらかし悪行を働くという物語に、鳥羽天皇にきた伝説の九尾を持つ狐が美女に化けて権力者をこの物語は、インド、中国を経て日本に渡って

という、国際的な悪霊物語です。
要行を行い、突然姿をくらまし今度はインドの太は遺唐使の船で日本に渡ってきて、玉藻の前とない遺唐使の船で日本に渡ってきて、玉藻の前とない世をようとするが、陰陽師に見破られて逃げ出すさせようとするが、陰陽師に見破られて逃げ出すさせようとするが、陰陽師に見破られて逃げ出すさせようとするが、陰陽師に見破られて逃げ出すという、国際的な悪霊物語です。

しみにしています。行く前から背筋に寒気が走りますが、夏休みを楽行く前から背筋に寒気が走りますが、夏休みを楽生えてなく、賽の河原とも呼ばれており、観光に殺生石のある一帯は、有毒ガスの所為で草木も

#### 【風の談話室】

### 《特別寄稿》

## 命の河を遡り(6)

田島早苗

親の心・子の心

健三は相変わらずマイペースを崩さず、細々とた。決まった収入があるだけで幸せだった。三と、結婚後初めての平穏な家庭生活を送ってい戻った加代は、真面目に軍需工場へ通っている健展の和十七年十月明子が生まれ、ようやく体調が

ての務めも加わり大忙し。 息子を頼って疎開して来たので、加代には嫁とした。健三の父親が、名古屋で二度も空襲に遭い、創作も続けて居て、矢張り最初の読者は家族だっ

や泥鰌が貴重な蛋白源になっていた。

で貰い、ネギなどは畝で買って必要な時必要なだけ抜いて使うことが出来、いつも新鮮な野菜が食中をにぎわしていた。その頃肉や新鮮な魚、卵なずをにぎわしていた。その頃肉や新鮮な魚、卵ながの高学年になった健作が、小つも新鮮な野菜が食がの高学年になった健作が、小川で捕って来た鮒が、加代は農家の人と契約して季節の野菜を届けが、加代は農家の人と契約して季節の野菜を届けが、加代は農家の人と契約して季節の野菜を届けが、加代は農家の人と契約して乗びる。

西の 国防婦人会の行事の合間に内職をしている加 国防婦人会の行事の合間に内職をしている加

し、早紀は子守りをしながら、読書をしていること嬉々として出かけて行く様になっていた。しかち前の明るさを発揮して、友達と遊ぶことが楽しの糞」と言われていた和子も、小学生になると持の糞」と言われていた和子も、小学生になると持のなが、地に擦りそうになっても続けられた。この負んぶ読書は小柄な早紀に負ぶわれた明

の早紀は少しもめげなかった。て行った。でも、本さえ読んでいられればご機嫌ので、すぐ失敗してしまい、段々仲間外れになっ仲間に入れて貰っても、運動神経がゼロに等しいだった。たまたま子守りから解放さて大縄跳びのとが多く、友達の遊びの輪に溶け込むことが下手

紀に友達はただ黙って笑っていた。村一番の御大尽の娘が早紀の同級生で、遊びに村一番の御大尽の娘が早紀の同級生で、遊びに出会ったのもこの家だった。この時ばかりはさいが最上の時間だった。その頃では珍しい掃除機のが最上の時間だった。その頃では珍しい掃除機のが最上の時間だった。その頃では珍しい掃除機のが足が見れる。と呼ぶ友達のが足が見れる。と呼ばないピアがの早紀も読んでいた本を放り出し、大きな音がが足がの早紀も読んでいた本を放り出し、大きな音がが足がの早紀も読んでいた本を放り出し、大きな音がが見れていた。

大目玉を食ってしまうのだった。が待っているのを忘れ、つい夢中になり、加代のの本、まさに友達の本棚は宝の山で、家の手伝いは友達の家の本を読む事だった。雑誌や子供向けい」と友達がむくれるけれど、早紀の第一の目的い」

加代は弟三吉の嫁取りを仕切ったことで、父留が、いざという時には何の役にも立たなかった。の家にも防空壕が掘られ、偽りの大本営発表に惑めった。が、いざという時には何の役にも立たなかった。ど緊迫の度を深め、敵機の本土空襲も始まった。どいた。加代の家でも縁側の下に防空壕を掘ったの家にも防空壕が掘られ、偽りの大本営発表に惑いた。といるという時には何の役にも立たなかった。といるという時には何の後の本土の場のである。

でいたが、しっかり者の嫁女の取り仕切る生家は

心身共に一番助けが必要だった時、

父を見捨て

吉とのわだかまりは、すっかり解けたと思い込ん

うのかと、心が冷え込んでしまう。かされる破目になり、同じ孫なのにこんなにも違嫌伺いに訪れると、見境も無く留吉の孫自慢を聞加代にとってはもう他人の家だった。留吉のご機

な家の中で伸び伸びと遊んでいた。り、娘の早紀や和子も伯父夫婦が大好きで、小さ出すたび、腹違いの兄の家へ寄るのが慣わしになー、場所の一つも聞いてもらいたくて、在所へ顔を

に喜んで、加代の愚痴にも耳を傾けてくれた。代たちが訪れると、まるで娘や孫たちが来たようは、趣味の大工仕事に精を出している好々亭主の、までの道のりはさぞ険しかったことだろう。今でまでの道のりはさぞ険しかったことだろう。今でまでの道のりはさぞ除しかな居を過ごせる様になる小さな家に夫婦二人のささやかな暮らしを営

「親の心子知らず、子供の心も親は判っていな「親の心子知らず、子供の心も親は判っていな「親の心子知らず、子供の心も親は判っていな「親の心子知らず、子供の心も親は判っていな「親の心子知らず、子供の心も親は判っていな「親の心子知らず、子供の心も親は判っていないに素直に沁み通っていった。

死者約十万人、焼失家屋約二十七万戸という大れた。正に地獄絵図だった。東京大空襲、超低空からの焼夷弾絨毯爆撃が行わ東京大空襲、超低空からの焼夷弾絨毯爆撃が行わい和二十年三月十日、未明にB22三百機による

いと思いやるゆとりも生まれていた。簡単に修復できず、父も悩んでいるのかもしれなて家を出てしまった不出来な娘、あの時の痛手は

孫なのにと思ってしまうのだった。の不孝が見えてきても、矢張り我が子たちも同じ切な時、長女として何の力にもなれなかった自分され、思いがけず終焉を迎えた下村織物、一番大でも、商売一筋に命を懸けた父が、時代に翻弄

若い命を次々に散らして行った。最初から帰りの燃料を積んでいない飛行機に乗り、身隊結成、そして行きて帰らずの神風特攻隊員が、昭和十九年に入るころには、学徒動員、女子挺

蛙大海を知らず』だった。
っている気になって居た日本は、正に『井の中の前の訓練を大真面目で繰り返し、万全の体制を取を張ったバケツリレ―の消火訓練、まるで一世紀本土決戦に備えての竹やり訓練や、火叩きと水

練も行われるようになった。な田舎に、まさか?と思いながら、空襲の避難訓な日舎にで学童の集団疎開も始まった。村ではこん

えてその場に伏せる。頭にかぶる。敵機が来襲した時には、耳と目を抑に下げるが当たり前になり、警報が鳴ると素早く座布団で作った防空頭巾を何時も肩から斜め

場を失った戦災孤児が街に溢れた。惨事で、大都会東京は一面焼け野原と化し、行き

が犠牲に成ったと言われている。上沖縄の戦いは終わった。この間島民約十数万人上沖縄の戦いは終わった。この間島民約十数万人日、日本軍司令官、参謀長、の自決によって事実き込んだ熾烈な戦いが繰り広げられ、六月二十三

だ」の防空壕に入っていれば、どんな空襲でも大丈夫の防空壕に入っていれば、どんな空襲でも大丈夫壕へ夜ごと通い出したのもその頃からだった。「あの甥っ子の家の、まるで地下室の様な立派な防空の特留吉が岐阜市の中心部にある、お気に入り

運命の昭和二十年七月九日、生まれた村への道少々体調が悪い時も決して休まなかった。

をゆったり歩く留吉の姿があった。

あて老後は二人でゆっくり楽しく過ごしたかった がなを見事に成功させることが出来たのだ」「この 大こそと、見こんだ俺の目に狂いはなかった」「世親戚の家にも顔を出し、ご無沙汰を詫びつつ、世 親戚の家にも顔を出し、ご無沙汰を詫びつつ、世 親戚の家にも顔を出し、ご無沙汰を詫びつつ、世 親戚の家にも顔を出し、ご無沙汰を詫びつつ、世 親戚の家にも顔を出し、ご無沙汰を詫びつつ、世 親戚の家にも顔を出し、ご無沙汰を詫びつつ、世 親戚の家にも顔を出し、ご無沙汰を詫びつつ、世 親戚の家にも顔を出し、ご無沙汰を詫びつつ、世 親戚の家にも顔を出し、ご無沙汰を詫びつつ、世

の事だったろう。戦闘帽をかぶり、大きなリュッ出の家へ、ふらりと立ち寄っていた。何十年ぶりの住む家、登代の関心を引こうと通い詰めた想いすっかり思い出に浸りきった留吉は、加代たち

ナア・・」

歳とは思えない元気な留吉だった。 クを背負い、すっきりと伸びた背筋、とても七十

孫たちは、お祖父ちゃんがリュックから取り出 「御祖父ちゃん有難う」という大合唱に「良しよ がった。「母さんに煮て貰え、旨いぞ、ほれ!」と がった。「母さんに煮て貰え、旨いぞ、ほれ!」と がった。「母さんに煮て貰え、旨いぞ、ほれ!」と がった。「母さんに煮て貰え、いぞ、ほれ!」と がった。「母さんに煮て貰え、いぞ、ほれ!」と がった。「母さんに煮て貰え、当いぞ、ほれ!」と がった。「母さんに煮て貰え、当いぞ、ほれ!」と がった。「母さんに煮て貰え、当いぞ、ほれ!」と がった。「母さんに煮て貰え、当いぞ、ほれ!」と がった。「母さんに煮て貰え、当いぞ、ほれ!」と がった。「母さんに煮て貰え、当いぞ、ほれ!」と がった。「母さんに煮て貰え、当いぞ、ほれ!」と がった。「母さんに煮て貰え、当いぞ、ほれ!」と がった。「母さんに煮て貰え、当いぞ、ほれ!」と がった。「母さんに煮て貰え、当れし涙をそっと

葉になってしまった。 これが、長田家の母娘が留吉と交わした最後の言 こに入っとったら、絶対安心じや」と帰って行っ こに入っとったら、絶対安心じや」と帰って行っ これが、長田家の母娘が留吉と交わした最後の言 これが、長田家の母娘が留吉と交わした最後の言 これが、長田家の母娘が留吉と交わした最後の言 これが、長田家の母娘が留吉と交わした最後の言

警報が追いかけて発令される非常事態だった。た時、いきなり、一発の爆弾が岐阜駅に落とされ、いったん解除され、皆が緊張を解いて布団へ入っこの日の夜、岐阜市に鳴り響いた空襲警報は、

の爆死の知らせだった。胸を撫で下ろしているときに、届いたのが、留吉胸を撫で下ろしているときに、届いたのが、留吉た家族は一人も欠けることなく、不幸中の幸いとがはの家はまる焼けだったが、ばらばらに逃げ

えれた三吉。 「親父が駄目だったらしい」真っ青な顔をして

たの?」 「どうしてよ!お気に入りの防空壕に行かなかっ

余燼がくすぶる中を出かけて行った。「お父さん、足を挫いていた加代は長い青竹に縋って三吉と「その防空壕が直撃を食らったらしい」

者の様にふらふら歩く加代だった。 者の様にふらふら歩く加代だった。 実家もきれいさっぱり焼けてしまっていたがた。 実家もきれいさっぱり焼けてしまっていたがた。 実家もきれいさっぱり焼けてしまっていたがた。 と呟き乍ら、 なの時間が断ち切られ、私はどうしたらいいで 時日の優しさは、あなたの遺言でしたか?」「お父

じまった多くの人々が犠牲に成った。大きじゃ」と頑固に言い張る留吉の言葉に踏みとったが、「逃げてはいかんじょ、この中に居れば大ったが、「逃げてはいかんじょ、この中に居れば大ったが、「逃げてはいかんじょ、この中に居れば大ったが、「逃げてはいかんじょ、この中に居れば大ったが、「逃げてはいかんじょ、この中に居れば大ったが、「逃げてはいかんだっと言いる。

の空襲で岐阜市街の八割が焼失した。防空壕は焼けたのに、母屋は焼け残っていた。こらも助かり、一家そろって無事だった。皮肉にも従兄の家族は、跡取り息子が大やけどをしなが

きて行く支えになって行った。 かなかったが、初めて心が通じ合った思い出が生孫達はとうとうお祖父ちゃんと最後の別れさえ叶その後,加代の脳裏から離れることはなかった。蒸し焼きになった父の無念そうに歪んだ顔は

(続く)

#### 八郮暮っ~、〈読者投稿》

## 八郷暮らし (6)

さと女

季節とばかりに逞く、ひろがって。梅雨)、そして熱波がやって来た、雑草たちは我が真夏日から、猛暑日へ…。いつの間にか雨季に(空

#### 楽しい時間

と、アッというまに時間が過ぎていく。と、アッというまに時間が過ぎていく。とが出来る。みんな自分を見て、と言っているよとが出来る。みんな自分を見て、と言っているよとが出来る。みんな自分を見て、と言っているよとが出来る。みんな自分を見て、と言っているよとが出来る。みんな自分を見て、と言っているよとでも気に入っている。草花を眺めながら、今日とても気に入っている。草花を眺めながら、今日とても気に入っている。草花を眺めながら、今日とても気に入っている。

#### 訪問者

#### ・父の日

会議があると出かけて行った。
一。父の日、なので準備はすべて本人が。その後、日のプレゼントは嬉しい。夕方は2人バーベキュ日、普段あまり干渉しあわない親子だが、こんな日、普段あまり干渉しあわない親子だが、こんなんからサクランボが届いた。そうだ、今日は父のんからサクランボが届いた。そうだ、今日は父のがらずの人があると出かけて行った。

#### 一日中雨

霧雨が、昼になるにつれ本降りになった。強い

中々上手いものである。 
中々上手いものである。 
中々上手いものである。 
の正式と竹藪の竹が大きくしなっていた。畑の草刈り機歴もいたが、一日中雨ふりなので、外を眺いて見たかったが、一日中雨ふりなので、外を眺いたがら、ヤキモキしたのは雑草たち、雨のたびに以上にイキイキとしたのは雑草たち、雨のたびに以上にイキイキとしたのは雑草たち、雨のたびに以上にイキイキとしたのは雑草とおいる。 
は、風が吹き竹藪の竹が大きくしなっていた。畑の草

## こんこんギャラリーへ

#### 同級生

かい、と、一緒に畑まで。いる。声をかけると、キュウリとナス持って行く生である彼は96歳になる母親を一人で介護して生である彼は96歳になる母親を一人で介護してり遠回りをして、同級生の家の方をまわる。同級タ方コロちゃんと散歩。同じ地区内だが普段よ

やっとのおもいで帰って来た。なっ。帰りはコロちゃんと野菜とたくさんのお花、された。同級生はいくつになっても良いもんだなをたくさん摘んでくれ、持って行ったらと纏めて様に植えられている。畑の隅に植えられていた花様に植えられている。畑の隅に植えられていた花様に植えられている。畑の隅に植えられていた花

#### ラジオ深夜便

それらが禁止されるの 友よ、答えは風の中に舞 うその歌詞の中に深い意味が込められている。深 あぁ~平和、平和を願います。 も深い意味がある。最近では石岡市にゆかりのあ 美空ひばりの歌う《一本の鉛筆・・・作詞:松山 離れなかった。そしてその感動冷めやらぬうち、 賞を授与、今日は一日中このメロディーが頭から かれて》…21歳の彼の作品、昨年はノーベル文学 っている 答えは風の中に舞っている 《風に吹 い嘆きの中に、どれだけ多くの鉄砲玉が飛んだら ディランの風に吹かれてですね」とか…。寝ぼ 風にまつわる歌が聞こえてきた、「風と言えばボ る大島花子さんも歌っている様です。 善三》第 1 回広島平和音楽祭の為に創られたよう ていたが、歌が始まるとパッチリ覚醒。 本の鉛筆があれば人間の命と書く。この歌もとて だ。1 本の鉛筆があれば戦争はいやだと書く。1 夜中ふと目を覚ましラジオをつけた。

#### ・美味しい季節

してみようかな。 トウモロコシをいただいた。甘くておいしい、トウモロコシを何本も食べた記憶がある。今では農 ヴモロコシを何本も食べた記憶がある。今では農 ヴモロコシを何本も食べた記憶がある。今年は大 ウモロコシを何本も食べた記憶がある。今年は大 がさんも作る家が少ない。来年は我が家でも挑戦 家さんも作る家が少ない。まりになるとカラスに かったての黄色がとてもキレイ。私の記憶ではト はた いっぱいなっとかラスに かったいたが、今年は大 がでたての黄色がとてもキレイ。私の記憶ではト はてみようかな。

納豆余談

·某月某日

暑い夏がやって来た。

増してしまう。って何もしていないと汗のにおいが一層に暑さをと混じって不快なにおいがしてくる。だからとい皆汗をかく。香水をつけている人もいるが、汗

な、と感心し、気持ちが嬉しくなった。され、と感心し、気持ちが嬉しくなった。やっぱり新婚さんっていい匂いがするんだり、何とも言えないふんわりした香りが伝わってり、何とも言えないふんわりした香りが伝わってかった。すると、今までにないいい匂いがした。或る日、リード作業で、新婚さんの職員の隣に

#### ・某月某日

三キロも太ってしまった。
う。しかし、私は、痩せていくどころか一か月で副作用で、だるさや眠気がきて、痩せていくとい癇の人に使う薬だが、精神患者にも使うらしい。最近「トピナ」という薬を増やされた。主に癲

家に帰るとすぐに寝てしまう。のである。その上、眠くてだるいので運動もせず、のである。その上、眠くてだるいので運動もせず、食欲が出てきて、いくら食べても満腹感がない

来なくなってしまう。 暑い夏に、これ以上太ってしまうと益々何も出のだが、特異体質かな、と言われてしまった。 な「トピナ」は食欲が減少し、痩せていくはずなな「トピナ」は食欲が減少し、痩せていくはずな

ら、もう少し動きが軽くなりたい。 これ以上は太りたくない。痩せなくてもいいか

「超優れ物食品」であると知った。不足。それを補うためには、大豆こそ完璧に近い小麦粉には「リジン」という必須アミノ酸がやや前号でアミノ酸に触れていたら、主食の白米・

ならば大豆の代表的発酵食品「納豆」とは、いならば大豆の代表的発酵食品「納豆」とは、いならば大豆の代表的発酵食品「納豆」とは、いならば大豆の代表的発酵食品「納豆」とは、いならば大豆の代表的発酵食品「納豆」とは、いちは、

戦時中は貴重な軍事食であった。られた。戦国時代には武士のスタミナ食品であり、造られたのでこの名があり、精進料理として用いてもそも納豆とは禅寺の納所(なっしょ=物置)で

からだろうと言われている。 田然、糸を引く煮豆が、食べられる事が分かって には盛んに栽培。納豆の起源は、弥生時代。煮豆 には盛んに栽培。納豆の起源は、弥生時代。煮豆 には盛んに栽培。納豆の起源は、弥生時代。煮豆 には盛んに栽培。納豆の起源は、弥生時代。煮豆 の敷物に落ち、冬季の炉端は、湿湿度が適切。 の敷物に落ち、冬季の炉端は、温湿度が適切。 の敷物に落ち、冬季の炉端は、温湿度が適切。 のもの。季

炭疽病が流行した歴史がある。 財鬼は □ C 1時間などではビクともしない。 安の起こされ、下流の千葉県や茨城県に、牛馬の でり起こされ、下流の千葉県や茨城県に、牛馬の でり起こされ、下流の千葉県や茨城県に、牛馬の がり起こされ、下流の千葉県や茨城県に、牛馬の がり起こされ、下流の千葉県や茨城県に、牛馬の

い捨て注射器が用いられるようになった。ない事が分かり、今日ではディスポーザブルの使して何度も使用していたが、芽胞は□℃では死なして何度も使用していたが、芽胞は□℃では死なして、注射器を煮沸消毒

倒す極めて原始的発想しか浮かばない。戦国時代 ゆえ、進化したのは高等生物だけではない。こん 分 ②乾熱処理 (圏 € 30 分又は60 € 1 時間) 銀河にはそれくらいの知能を持ったエイリアンが 死んだふりをして、百年も居眠りをし、「時」を待 もう少し知恵があるなら、納豆菌みたいに、一旦 など、生首を取るなど超野蛮な戦いを繰り返した。 自分が生き延びるために、ライバルを戦争などで な微生物だって生存のために、これほどの進化を の消毒剤「グルタラール液」に長時間浸す。 ル・次亜塩素酸ソーダなどは効かないので、 存在するかも…。 つ。それくらいの科学力があってよさそう。他の している事を認識すべきである。むしろ人類など 芽胞を殺すには①オートクレーブ(2気圧11 ③アルコー °C 15

寿国日本」の原動力になっているのかも知れない。 方は代表し、強い抗菌作用がある。なお納豆のネバネバは、 し、強い抗菌作用がある。なお納豆のネバネバは、 し、強い抗菌作用がある。なお納豆のネバネバは、 になった時に自ら食べる為の栄養食品にあたる。 になった時に自ら食べる為の栄養食品にあたる。 になった時に自ら食べる為の栄養食品にあたる。 になった時に自ら食べる為の栄養食品にあたる。 とこさ、か一でですが、、 が高速菌、ビブリオ、サルモネラ、O 157 などに対が高・ が高速する。 では、一次であり、、 がのであり、、 がのであり、、 がのでは、 になった時に自ら食べる為の栄養食品にあたる。 では、 では、 でいるのかも知れない。

前号でアミノ酸に触れていたら、主食の白米・発展しない事を、ただただ祈るだけ…。

何かの刺激で起き出して暴れまわり、人類滅亡に

DNAは今、死んだふりをして眠っているが、

古代人類のDNAに潜り込んできたウイルス

「超優れ物食品」であると知った。不足。それを補うためには、大豆こそ完璧に近い小麦粉には「リジン」という必須アミノ酸がやや

になって考えたらいい。 ならば大豆の代表的発酵食品「納豆」とは、いならば大豆の代表的発酵食品「納豆」とは、いない。私に言わせれば、納豆の消費があまり伸びが、臭いが残る…とかで、納豆消費があまり伸びが、臭いが残る…とかで、納豆消費があまり伸びが、臭いが残る…とかで、納豆の消費があまり伸びない。私に言わせれば、納豆の医療費はかなり低下するはず。政府も本気はなって考えたらいい。

「賄賂(わいろ)」の語源とか。 辞苑によれば「藁苞に黄金(こがむ)」の諺が転じて嫉県の「藁苞(わらづと)納豆」は有名。しかし広城県の「藁苞(わらづと)納豆」は有名。しかし広城県の日本独自の宝物を活用しない手はない。茨が島の日本独自の宝物を活用しない手はない。茨が島の日本独自の宝が出来である。

り、戦時中は貴重な軍事食であった。いられた。戦国時代には武士のスタミナ食品であで造られたのでこの名があり、精進料理として用そもそも納豆とは禅寺の納所(なっしょ=物置)

豆腐は世界共通語で tohu。今日、健康食品とし豆腐は世界共通語で tohu。今日、健康食品とし豆腐は世界共通語で tohu。今日、健康食品とし豆腐は世界共通語で tohu。今日、健康食品とし豆腐は世界共通語で tohu。今日、健康食品とし

活し、煮豆を発酵させ、納豆となる。藁は乾燥すており、それが適切な温湿度を得れば、菌体を復本に納豆菌の「芽胞(がほう」が1千万個も付着し納豆菌は「枯草菌」の一種で、大型杆菌。藁一

身し、生命を存続する。という非常にコンパクトで、抵抗性の強い形に変境になると、菌体の遺伝子など重要成分が「芽胞」胞菌は、乾燥や酸アルカリなど生存に不適切な環胞菌、炭疽菌の芽胞は生物兵器にも使われる。芽残る。 炭疽菌の芽胞は生物兵器にも使われる。 芽ると殆どの菌は死ぬが、枯草菌は芽胞として生き

い捨て注射器が用いられるようになった。ない事が分かり、今日ではディスポーザブルの使して何度も使用していたが、芽胞は□℃では死なして何度も使用していたが、芽胞は□℃では死なるれゆえ、昔、病院などで、注射器を煮沸消毒

の消毒剤「グルタラール液」に長時間浸す。それル・次亜塩素酸ソーダなどは効かないので、最強分 ②乾熱処理(圏℃3分又は圏℃1時間)③アルコー芽胞を殺すには①オートクレーブ(2気圧図℃15

存在するかも…。

存在するかも…。

存在するかも…。

存在するかも…。

存在するかも…。

存在するかも…。

を存在するかも…。

存在するかも…。

を存在するかも…。

を存れてらいの知能を持ったエイリアンがある、進化したのは高等生物だけではない。こん

が溶連菌、ビブリオ、サルモネラ、〇 15 などに対 展しない事を、 かの刺激で起き出して暴れまわり、 DNAは今、死んだふりをして眠っているが、何 寿国日本」の原動力になっているのかも知れない。 納豆・梅干・塩辛を外国人は日本の3大ゲテモノ アミノ酸の連結した鎖であり、納豆菌が栄養不足 重要な効果がある。更に納豆には、「ジピコリン酸 更にビフィズス菌を増やし、腸内環境を調整する ある事を再認識すべきだ。納豆が、世界の「最長 食品と言うが、納豆は世界に誇る「超優れ物」で になった時に自ら食べる為の栄養食品にあたる。 し、強い抗菌作用がある。なお納豆のネバネバは、 富に含まれる。止血作用により、出血を阻止する。 古代人類のDNAに潜り込んできたウイルスの さて納豆には、血液凝固を促すビタミンKが豊 ただただ祈るだけ…。 人類滅亡に発

#### 水戸の反骨

打田昇三

江戸時代の水戸と言えば徳川御三家の領地とし

頭で弱体化してしまった。 頭で弱体化してしまった。 のだが、源頼朝の時代に小田氏(八田系)らの台は桓武平氏系の官僚から出て土着した大掾氏が居たと思われる。国府が置かれていた石岡(府中)に時代にかけて常陸国の多くは佐竹氏が支配していて知られているが南北朝時代、更には群雄割拠のて知られているが南北朝時代、更には群雄割拠の

場で見り合成りこ手後こよら憂長ご手にようにいる。 東の血筋 (新羅三郎義光の系統) ではない。 を牛耳っていた上杉一族が入り込んでいたから本 竹に支配されていた。ただし、佐竹の家系も鎌倉 仁の乱が起きた十五世紀以後の常陸国は、ほぼ佐 その小田氏も源頼朝の死後は佐竹の餌になり応

て家康公の名で厳しい命令が伝えられた。
の当主・義宣は御挨拶のため伏見に来て居たが、五月のこと、天下は既に徳川氏に移っており佐竹五月のこと、天下は既に徳川氏に移っており佐竹

秋田近辺を与えるから速やかに移られよ!」という訳にはいかないので、今回、新領地として置かれたものである。然しながら、領地を其の侭本来は領地没収なのだが上様の御慈悲により助け本のに、 
はいかない、関ケ原合戦で毛利、上杉、字 
「…佐竹の家は、関ケ原合戦で毛利、上杉、字

高社の命令は絶対的であり、是を拒否すれば大 「何せに従います…」と言う他はない。嫌な 「何せに従います…」と言う他はない。嫌な 「何せに従います…」と言う他はない。嫌な 「何せに従います…」と言う他はない。嫌な を書を有難く押し頂いたのである。早速、佐竹 がで秋田行きを命じた。その他は水戸に土着させ がで秋田行きを命じた。その他は水戸に土着させ を選

反発し、義宣に「…弱々しくも狸め(家康)の言是に対して佐竹の武将・車丹波守忠次が猛然と

いなりになってはなりません。命令を下して頂けいなりになってはなりません。命令を下して頂けいなりになってはなってはなりません。命令を下して頂けいなりになってはなりません。命令を下して頂けいなりになってはなりません。命令を下して頂けいなりになってはなりません。命令を下して頂けいなりになってはなりません。命令を下して頂けいなりになってはなりません。命令を下して頂けいなりになってはなりません。命令を下して頂けいなりになってはなりません。命令を下して頂けいなりになってはなりません。命令を下して頂けいなりになってはなりません。命令を下して頂けいなりになってはなりません。命令を下して頂けいなりになってはなりません。命令を下して頂けいなりになってはなりません。命令を下して頂けいなりになってはなりません。命令を下して頂けいなりになっている。

夜明けには反乱軍も逃げるしかなかった。初は成功した。然し、幕府軍の救援部隊が増えて日の夜には三百の兵を集め、奇襲攻撃をかけて最らが水戸領内の諸城を収めたのだが、車忠次は隣らが水戸領内の諸域を収めたのだが、車忠次は

の人材を統率して戦乱に備えていたという。車忠次の弟は猛虎(たけとら)と言う。逃れて軍自らの尋問に堂々と答えて、徳川の臣として仕えるように言われたのを断り、望んで江戸市中の軍自らの尋問に堂々と答えて、徳川の臣として仕り将軍を刺そうとしたが、果たせず捕られた。将軍と呼ばれた(言葉が適切ではないが)汚れ仕なかったか!」と、関係者を罰したらしい。

### スペインの旅(2)

木下明男

事をした。

事をした。

「ギター館の仕事を始めてから誘われ続けていた
をいと思っていた旅行です、即座に行きますと返
をいと思っていた旅行です、即座に行きますとが
ないと思ってきた返事が、木下さん来年は一緒に
すると反ってきた返事が、木下さん来年は一緒に
すると反ってきた返事が、木下さん来年は一緒に
すると反ってきた返事が、木下さん来年は一緒に
ないと思っていた旅行です、即座に行きますと返
をいと思っていた旅行です、即座に行きますと返
をいと思っていた旅行です、即座に行きますと返
のるペインツアー紀行を
のるペインツアー紀行を
のるペインツアー紀行を
のるののスペインツアー紀行を



近くのホテルに泊まり、食事会。初めての方々ではれました。メンバーは吉川二郎さんとデュオのとわたし。当初は、この4人の予定でしたが、連とわたし。当初は、この4人の予定でしたが、連とわたし。当初は、この4人の予定でしたが、連とわたし。当初は、この4人の予定でしたが、連とわたし。当初は、この4人の予定でしたが、連とからの出発なので、額合わせも含め前日に関空からの出発なので、額合わせも含め前日に関空からの出発なので、額合いとデュオのといいでは、

の日は関空近くに泊り。したが楽しい旅行になる事が予想されました。こ

そして出国審査も無事終了。
ドキドキ!そしてワクワクしながら、関西空港へ、ドカの日、朝起きてまだホテルにいるうちから、

## ・スペインツアーの始まり



見える丘へ。 練習をする吉川さんと野口さんを除いて、宮殿の暫く休んでから市内見学、コンサートに備えて

殿を眺める事でした。 ネバダの冠雪した山々をバックにアルハンブラ宮ネの旅行で一番楽しみにしていたのは、シェラ

そして大盛り上がり。
では現地在住のフラメンコダンサー石川亜哉

ハンブラの夜景見物です。ルバイシン地区でのフラメンコショー見学とアルアルハンブラ宮殿を満喫しました。そして夜はアの時期園内のバラは最高潮、久し振り(2回目)のの時期園内のバラは最高潮、久し振り(2回目)の翌日午後からは、アルハンブラ宮殿の見学、こ



た・・・素晴らしい音です! ターを、吉川さんと河野さんが試奏をしていまし リア近くで、ギター製作家のミゲル・ゴンザレス ます。アルメリアでは吉川二郎さんのコンサート さんの工房によりました。出来たばかりの新作ギ も予定されているので、愉しみです!途中アルメ 二泊したグラナダを離れ、アルメリアに向かい



しいところでした。吉川先生がCDのタイトルで、 団体客でいっぱいだったが、此処は静かですばら う岬へ・・・!フラミンゴの生息地のも立ち寄り 名前だけ知っていました。 で極端に客が少ない。何処に行ってもアジア系の 光地です。余り知られていないのと交通の不便さ とか言うそうですが、此処は素晴らしい景勝の観 カメラに収めました。めのう岬…今はネコミサキ ミゲル・ゴンザレスさんの工房見学後に、めの

スニエット Tも展示してあり、日本との交流が望 のギター博物館を見学。吉川さんが寄贈した、ビ

アルメリアで一番行きたかった、トーレス所縁





り空いています。 そして目の前に見える海の向こうは、もうアフリ サバも素晴らしい。まだ発掘途中で整備されきれ カ、要塞的要素もあり、リアルな遺跡です、何よ ていないが、アルハンブラに劣らない素晴らしさ。 アルハンブラだけが宮殿ではない。此処アルカ









後9時開演)現地の IV やメディアの取材がありまし るようです。 んのコンサート(野口久子共演)が企画されており(午 メンコダンサー石川亜哉子。多くの方が駆けつけ です。ミゲル・ゴンザレスやスペイン在住のフラ た。多くのギターファンから期待されているよう まれますね(石岡市と姉妹都市?)。この日は、吉川さ

り上がります。10席の会場は満杯、ギタルパでア っても終わらず、吉川二郎のコンサートは一番盛 ンダルーサが終わり大拍手。 9時から始まったコンサートは、夜の12時にな 12時を過ぎてもコンサートは続いています。そ

が…。終わりは夜明け近く午前3時を過ぎる。 其々ギター演奏に合わせ即興でカンテが、ダンス して、コンサート後の打ち上げが一番盛り上がる、



打田昇三

神話で誤魔化していた日本よりは立派である。

紀元前一千年代の話であるから断定は出来ない紀元前一千年代の話であるから断定は出来ない。

書・列王記・上・第十章に書かれているとか。 
書・列王記・上・第十章に書かれているとか。 
なの様な人物なのかを確認する為に自分から出向どの様な人物なのかを確認する為に自分から出向どの様な人物なのかを確認する為に自分から出向どの様な人物なのかを確認する為に自分から出向との様な人物なのかを確認する為に自分から出向との様な人物なのかを確認する為に自分から出向との様な人物なのかを確認する為に自分から出向との様な人物なのかを確認する為に自分から出向との様な人物なのかを確認する為に自分からといるといるが、

ク一世の皇統…」と書かれていたらしい。幼稚なレムのソロモン王との間に生まれた男児・メネリる前のエチオピア憲法には「シバの女王とエルサだが、やがて男児を出産した。社会主義国家になサレムに長期滞在してからエチオピアに戻ったのソロモン王の求めに応じてシバの女王はエルサ

#### 【特別企画】

是非一度お立ち寄りください。

## 打田昇三の私本・平家物語

巻第六 - (二 - 3)

祇園女御(ぎおんにょご)のこと

平清盛の出生に関わる話で、平家物語は知らなくでも祇園女御のことは知っている、という方は多いのが大雑把に言うと「女御」と言うのは、皇后以外の皇続く皇后が出てくるが、難しく考えると面倒なので大雑把に言うと「女御」と言うのは、皇后以外の皇がの天皇は、仕事はどうでも夜は忙しくて多くの以前の天皇は、仕事はどうでも夜は忙しくて多くのは、皇后が出ていた。夜勤専門でも多くの官職があった。代表的なのが女御なのである。

本文に戻ると、或る人が言うには清盛は平忠盛の

本の訳は次の様なことによるのである。永久年間(西暦一一三字一一七)鳥羽天皇時代で白河上皇がいた。この女性は東山の麓、八坂神社こと祇園のがいた。この女性は東山の麓、八坂神社こと祇園のがいた。この女性は東山の麓、八坂神社こと祇園のがいた。この女性は東山の麓、八坂神社こと祇園のがいた。この女性は東山の麓、八坂神社にと祇園のがいた。この女性は東山の麓、八坂神社にと祇園のがいた。この女性は東山の麓、八坂神社にと祇園のがいた。まは次の様なことによるのである。永久年が、その訳は次の様なことによるのである。永久年間(西暦一十三字一十七)鳥羽天皇時代で白河上皇ががいたが、その訳は次の様なことによるのである。永久年間(西暦一十三字一十七)

出した。 を持った鬼で有ろう…どうしよう!」と大騒ぎをし にも碌な奴が居なくて「ああ、 る。白河上皇も夜遊びが好きなくせに化け物に弱く 左右の手に槌(っち)のような物と光る物を持ってい えた。頭は磨きたてた銀の針で覆われ、差し上げた のだが、暗闇の中に何やら堂に近づく怪しい影が見 来た。祇園女御の住む家の近くに小さな御堂が在る ば良いのだが…暗闇の中を辛うじて祇園の近くまで ったから闇夜である。その様な晩なら出掛けなけれ 警護する何人かの武士を供にしていた。時節は五月 く訳にはいかない。殿上に奉仕する者数人と禁中を て怯(ぉび)えるだけであるし、従う側近の家来たち 訪問では無く「お忍び」であるから行列を揃えて行 一十日頃で、未だ宵の口であっても天候が良く無か 或る時に祇園女御の許を白河上皇が訪れた。 恐ろしや打出の小槌

物の正体を見たのだが、あまり強そうな様子では無理不尽ではあるが忠盛は畏まって御堂に近づき、怪任であろう。あの怪物を退治しろ!」と言われた。れて、誰が決めたのか「…こういう仕事はお前が適其の時にお供の中で遥かに下っ端の平忠盛が呼ば

いので生け捕りにしようと身構えた。

わりに麦藁で編んだ帽子を被っておりている。外は強い雨が降っていたので法師は笠の代け手には油の壺を持ち、片手には陶器に火種を持っの老法師であり、其の御堂に燈明を上げに来たので怪物が悲鳴を上げた。灯りに照らせば、それは一人怪地が悲鳴を上げた。灯りに照らせば、それは一人怪地が掛かって抑え込んでみると「何をされる」とに飛び掛かって抑え込んでみると「何をされる」と怪しい光は二、三度ばかり点滅した。忠盛は其処

其れが銀の針のように見えたのである。

事情が分かって見ると、恐ろしがっていた者も急 して女性が良く使われた?

・ はの時に祇園女御は身籠っていたので次の様な条件が付けられた。生まれた子が女児ならば上皇の寵愛其の様な思惑が窺われる裁定である。天皇家にとっきるが男児は皇位争いの原因になるからであろう。きるが男児は皇位争いの原因になるからであろう。さるが男児は皇位争いの原因になるからであろう。として宮中に戻す。男児ならば平家の子として武士として宮中に戻す。男児ならば平家の子として武士として宮中に戻す。男児ならば平家の子として武士といが付けられた。生まれた子が女児ならば上皇の子供が付けられた。生まれた子が女児ならば上皇の子供が付けられた。

盛と祇園女御との間に生まれたけれども白河上皇のいる。どちらでも結果に変わりは無くて平清盛は忠原女御とが密通したのを上皇が許したことになってに報告する機会が無かった。日本外史では忠盛と祇であったから、忠盛は其の様にしていたのだが上皇男児を生んだ。母子共に平家の籍に入れて良い約束男児を生んだ。母子共に平家の籍に入れて良い約束払下げ手続きが済んで平家屋敷に来た祇園女御は払下げ手続きが済んで平家屋敷に来た祇園女御は

子である可能性が高いのである。

暫く経ってから白河上皇が熊野へ参詣に出たとき 「忠盛」とりて養(やしな)いにせよ」と下の句を付け が子(祇園女御の生んだ子)は這うほどにこそ成りにけ が子(祇園女御の生んだ子)は這うほどにこそ成りにけ が子(祇園女御の生んだ子)は這うほどにこそ成りにけ で思在の和歌山県有田市付近で休息した際に、供の に現在の和歌山県有田市付近で休息した際に、供の に現在の和歌山県有田市付近で休息した際に、供の に現在の和歌山県有田市付近で休息した際に、供の

白河上皇は次のような歌を忠盛に与えた。みを感じていたのかも知れない。このことを聞いたせた。幼な心に皇族から下級武士に格下げされた恨ところが幼少時の清盛は泣き虫で周囲の者を困ら

「夜泣きすとただ盛り立てよ末の世に

たのごく一部)でも 清く栄ふることもこそあれ」 まの流によって清盛と名付けられたのである。 よ衛佐(さひょうえのすけ=従五位上、鎮守府の長官と同じ位 兵衛佐(さひょうえのすけ=従五位上、鎮守府の長官と同じ位 兵衛佐(さひょうえのすけ=従五位上、鎮守府の長官と同じ位 兵衛佐(さひょうえのすけ=従五位上、鎮守府の長官と同じ位 大本のた。裏の事情を知らない者は「摂政関白家(藤原 なった。裏の事情を知らない者は「摂政関白家(藤原 なった。裏の事情を知らない者は「摂政関白家(藤原 なった。

も劣るものでは無い」と仰せになった。が、是を聞かれた鳥羽上皇は「清盛の血筋は華族に是ほど出世する人は居ないのに…」と噂をしたのだ

その場合は男児が誕生し、それが藤原不比等の兄で、鎌足の子にするように…」と言われたことがある。んだ児が女子ならば皇室に入れよう。男児であれば近・藤原鎌足のこと)に与えられた際に「此の女御が生妊していた女御を大織官(たいしょくかん=当時の最高官好していた女御を大織官(たいしょくかん=当時の最高官

り」などを簡単に思い付いても不思議ではない。上皇の子であったとすれば天下の大事である「都遷例があって現代(平安末期)にも平清盛公が実は白河ょう=唐に学び妙薬寺を開いた)である。昔も、その様な場井市多武峰の妙薬寺に入った定恵和尚(じょうえかじ櫻井市多武峰の妙薬寺に入った定恵和尚(じょうえかじ

近の蔵人(くらんど)を目指し実務研修中であった。近の蔵人(くらんど)を目指し実務研修中であった。現代だと国土交通省の係長級)の子である。国家公務員上輔から八代目に当る前右馬助守国(右馬助は六位相当、村にと国土交通省の係長級)の子である。国家公務員上輔から八代目に当る前右馬助守国(右馬助は六位相当、大にである。清盛公と同じ日に病気となり、義に厚い方である。清盛公と同じ日に病気となり、義に厚い方である。清盛公と同じ日に病気となり、義に厚い方である。清盛公と同じ日に病気となり、

その頃に宮中で火災があり、近衛天皇だけが火災その頃に宮中で火災があり、近衛天皇だけが火災をして天皇に近づき「どうぞ、是にお乗り下さい!」と言った。下っ端であるから天皇は国綱の顔を知らない。「其の方は誰か?」と聞かれて、「進士の雑色ない。「其の方は誰か?」と聞かれて、「進士の雑色に立って天皇を救出した。天皇は「こういう危急の場合に頭の回る人物こそ役に立つ!」と、其の時の関合である藤原忠通に命じて領地を与えられ、正社員白である藤原忠通に命じて領地を与えられ、正社員白である藤原忠通に命じて領地を与えられ、正社員白である藤原忠通に命じて領地を与えられ、正社員白である藤原忠通に命じて領地を与えられ、正社員として召し使われるようになったのである。

い」と言って予備の衣装を使わせた。少し時間は過が別な衣装を準備出来ますから、それをお使い下さだが、その者が酒を飲み過ぎて水溜りに倒れ、衣装だが、その者が酒を飲み過ぎて水溜りに倒れ、衣装だが、その者が酒を飲み過ぎて水溜りに倒れ、衣装だが、その者が酒を飲み過ぎて水溜りに倒れ、衣装になったののでは、近衛の側近が舞いを奉納する予定であったのこと、近衛の側近が舞いを奉納する予定であったのこと、近衛の側近が舞いを奉納する予定であった際の同じ天皇の時代に石清水八幡宮に行幸された際の

したのである。
のみこと)が天の岩戸を開かせたという神話を思い出のみこと)が天の岩戸を開かせたという神話を思い出て、参列した人々は神代の頃に天鈿女命(あめのうずめぎたけれども邦綱のお蔭で予定通りに舞が奉納出来

島帽子 (えぼし) を吹き飛ばされた。 この邦綱の先祖に山陰中納言という方が居た―と この邦綱の先祖に山陰中納言という方が居た―と この邦綱の先祖に山陰中納言という方が居た―と この邦綱の先祖に山陰中納言という方が居た―と この邦綱の先祖に山陰中納言という方が居た―と この邦綱の先祖に山陰中納言という方が居た―と この邦綱の先祖に山陰中納言という方が居た―と

とし、殺そうとした。

な言・出世コース)として九州へ赴任する時に二歳であ次官・出世コース)として九州へ赴任する時に二歳であ此の僧都は、父親の山陰中納言が太宰大弐(太宰府の此の僧都は、父親の山陰中納言が太宰大弐(太宰府の都が自分の衣装箱から烏帽子を出して貞国に渡した。

ま母が生前に、桂川の鵜飼が鵜の餌にしようとし 実母が生前に、桂川の鵜飼が鵜の餌にしようとし 実母が生前に、桂川の鵜飼が鵜の餌にしようとし 実母が生前に、桂川の鵜飼が鵜の餌にしようとし 実母が生前に、桂川の鵜飼が鵜の餌にしようとし

う友人は此の人 (清盛) 以外には居ない、として息子清盛に金品を贈っていた。さらに現世で心の通い合「邦綱は経済的に裕福であったから、毎日のように

場を逃げ出したりした。

み)が朗詠にした。(実際の作者は違うらしい) め時代に王宮に二人の姫が居り姉は蛾黄(がこう)、妹の時代に王宮に二人の姫が居り姉は蛾黄(がこう)、妹の時代に王宮に二人の姫が居り姉は蛾黄(がこう)、妹の時代に王宮に二人の姫が居り姉は蛾黄(がこう)、妹の時代に王宮に二人の姫が居り姉は蛾黄(がこう)、妹の時代に王宮に二人の姫が居り姉は蛾黄(がこう)、妹の時代に王宮に二人の姫が居り姉は蛾黄(がこう)、妹の時代に王宮に二人の姫が居り姉は蛾黄(がこう)、妹の時代に王宮に二人の姫が居り姉は蛾黄(がこう)、妹の時代に王宮に二人の姫が居り姉は蛾黄(がこう)、妹の時代に王宮に二人の姫が居り姉は蛾黄(がこう)、妹の時代に王宮に二人の姫が居り姉は蛾黄(がこう)、妹の時代に王宮に二人の姫が居り姉は気が見いった。

と否定していた。しかし息子の邦綱が蔵人どころかと否定していた。しかし息子の邦綱が蔵人どころかい、親戚の者が神職を務める加茂神社に何度も参詣が、親戚の者が神職を務める加茂神社に何度も参詣が、親戚の者が神職を務める加茂神社に何度も参詣をの側近)に成し給え…」と願っていたのである。或る前兆であろう」と言われたけれども「私はもうなる前兆であろう」と言われたけれども「私はもうなる前兆であろう」と言われたけれども「私はもうなる前兆であろう」と言われたけれども「私はもうなる前兆であろう」と言われたけれども「私はもうなる前兆であろう」と言われたけれども「私はもうなる前兆である」と言われたけれども「私はもうなるが、家人が言がは、その様な人物であったのだが、家人物言が記しませい。

は無い。 正二位大納言にまで出世したのであるから言うこと

養和元年二月二十二日に後白河法皇は本来の御所養和元年二月二十二日に後白河法皇は本来の御所を合いいから、兎に角、行ってみよう…」と言うことで行幸が決まった。

法皇は現地で先ず建春門院(故・平滋子)が住まわれた。

であり、此の人物は巻三「行隆之沙汰」の主風などたちが元の地位に復された。 末寺や寺領の荘園などたちが元の地位に復された。 平家軍に焼かれた大仏殿のも持ち主に返還された。 其の事を担当したのは蔵人を少弁(天皇側近で少納言の上に位置する高官)の藤原行隆左少弁(天皇側近で少納言の上に位置する高官)の藤原行隆を歩か、此の人物は巻三「行隆之沙汰」の主人公であり、此の人物は巻三「行隆之沙汰」の主人公である。 行隆は、先年に八幡市(現在)の石清水八幡宮のる。 行隆は、先年に八幡市(現在)の石清水八幡宮を指り分けにした童子の姿で神のお使いが現ればとを持つべし」と言って笏(しゃく)を与えられたは是を持つべし」と言って笏(しゃく)を与えられた、 「我は大菩薩の使者である。大仏殿を修復する際に「我は大菩薩の使者である。大仏殿を修復する際に を持つべし」と言って笏(しゃく)を与えられたは是を持つべし」と言って笏(しゃく)を与えられた

宿縁であろうけれども目出度い話である。奉行に複数の弁官から行隆が選ばれた。前世からのだが今回、平家の悪行によって奈良が焼かれ再建の不思議に思って授けられた笏を大切にしていたの

六千騎ほどの軍勢が木曾川を隔てて布陣していた。 あるので、源氏方も十郎蔵人行家(巻四、源氏揃に登場) のが例であった)そうは言っても源氏平家双方に都合が 攻め上り、道を塞いで都への通行を止めている」こ 的に置かれた国司の代理人)から早馬をもって緊急報告が 家を支援させたようである。 なお「日本外史」に依れば源頼朝が義円に命じて行 と卿公義円(きょうのきみ・ぎえん=源義経の兄)を筆頭に 経っていないのに、乱世とは言いながらあさましい を大将軍として其れに左中将清経、小松少将有盛() る宗盛の弟・左兵衛督知盛(さひょうえのかみとももり) とが記されていた。そこで平家は清盛の後継者であ 入った。それには「東国の源氏勢が既に尾張国まで ことである。(この時代でも人の死後、四十九日は喪に服する 人とも重盛の子)を付け、三万余騎の軍勢を発向させた。 入道相国(清盛)が亡くなってから未だ五十日も 同年三月十日、美濃国の目代(もくだい=現地国府に私

ろ!」と気の利いた命令が下った。 も武士の鎧も濡れている。それを見極めて攻撃し 裕があったから慌てず「敵は川を渡って来るから馬 で戦ったが、今回の平家軍は富士川の時と違って余 で戦ったが、今回の平家軍は富士川の時と違って余 って三万余の平家軍に攻撃を開始した。夜が明けて って三万余の平家軍に攻撃を開始した。夜が明けて

は敵陣に深く入り過ぎて討たれてしまった。勢いづ験が少ない。辛うじて引き返して助かったが、義円ので助かり様が無い。源行家は大将軍でも合戦の経源氏の軍は苦労して川を越えたところを狙われた

かである…と人々は言った。では無い」と教えているのに今回の源氏の戦法は愚さでは無い。兵法では「川や沼を後にして戦うものさが兵力が少ない。とても敵う(かなう)戦いた平家軍は川を渡って追撃する。源氏軍も是を迎

源行家は三河国に退き、矢作川(やはぎがわ)の橋を源行家は三河国に退き、矢作川(やはぎがわ)の橋を頭行家は三河国に退る武士たちも平家に付いたと思われるのだ遠江に居る武士たちも平家に付いたと思われるのだ遠江に居る武士たちも平家に付いたと思われるのだった。その勢いに乗って東国へ攻め込めば三河・は書いてある。しかし実際には此の遠征に知盛は加めっていなかったと言う。

なきが如し」とあるが、其の通りである。

陣を破ると言えども残党を攻めねば、し出したる事な勝利の侭で都に引き上げてしまった。原本に「一会戦で勝っていた平家軍は誰かの命令で中途半端

## 嗄声(しわがれごえ)のこと

流である越後の豪族・城氏一族が、傾きかけた平家めて短く「飛脚到来」でも登場した桓武平氏平繁盛ど)の不調でかすれた声を言うらしい。此の章段は極やがれごえ」と言って、風邪を引いた時などに喉(の余り使わない言葉ではあるが「嗄声」は一般に「し余り使わない言葉ではあるが「嗄声」は一般に「し

を記りという。などのではできません。 声でしか平家のことを言ってくれないのである。 神仏さえも愛想を尽かした状態になって、かすれた 天下の平氏も徐々に仲間を失い衰退してゆくので、 に味方しようとする際に起こった不思議の話である。

越後国の住人である城太郎助長は越後守に任官さは後国の住人である城太郎助長は越後守に任官された朝廷の恩(つまりは平家の恩)に報いるために木曾真夜中から急に大風、大雨に加えて雷まで盛大に鳴真夜中から急に大風、大雨に加えて雷まで盛大に鳴り渡った―と原文にあるが実は助長は出陣前に病死していたらしい。出陣したのは弟の城助職(じょうすけのり)であったと思われる。越後守任官も臨後国の住人である城太郎助長は越後守に任官さば後国の住人である城太郎助長は越後守に任官さば後国の住人である城太郎助長は越後守に任官さば後国の住人である城太郎助長は越後守に任官さば後国の住人である城太郎助長は越後守に任官さばる。

である。それも嗄声なので不気味さが増す。んだところで雲の上から大きな声が聞こえてきたのいずれにしても、出陣の時に雨があがり雷鳴が止

ですから、どうか出陣は止めて下さい…」と懇願し家臣たちも「是ほど恐ろしい天のお告げが有ったの此の大声を聞いた者は身の毛がよだつ思いであり、が通り過ぎた。城太郎か弟の助職か明確では無いが、が通り過ぎた。城太郎か弟の助職か明確では無いが、大の盧遮那仏を焼き滅ぼした平家に味方をする者が大の盧遮那仏を焼き滅ぼした平家に味方をする者が大の盧遮那仏を焼き滅ぼした平家に味方をする者が

取りやめになった。此の事件は京都の平家屋敷に急ったけれども数時間で死亡してしまったから出陣は然に落馬する。家臣が助け起こし輿に乗せて館に戻足がずくんで立ち止まった。馬上で硬直したので当空に黒雲が現れて大将の真上に来た。大将も部下も空に黒雲が現れて大将の真上に来た。大将も部下も中、大田の早朝に城を出て百メートルも行かないうちに、大田の早朝に城を出て百メートルも行かないうちに、大田の早朝にはゆかず「弓しかしながら平家の手前、逃げる訳にはゆかず「弓しかしながら平家の手前、逃げる訳にはゆかず「弓

報されたが平家も騒ぐだけで打つ手がない。

其の年(治承五年)は七月十四日から年号が養和に其の年(治承五年)は七月十四日から年号が養和に正と藤原師長が尾張国から、また按察大納言資方でに、と藤原師長が尾張国から、また按察大納言資方でに、と藤原師長が尾張国から、また按察大納言資方でに、と藤原師長が尾張国から、また按察大納言資方でに、と藤原師長が尾張国から、また按察大納言資方でに、と、大学の中、治承五年)は七月十四日から年号が養和に其の年(治承五年)は七月十四日から年号が養和に

の場合も風情ある演奏であった。奏したのだが、今回も院の御所で演奏をした。何れされ、赦された際に宮中の廣廂(ひろひさし)で雅楽を先に父親の頼長が保元の乱を起こした罪で土佐に流用月二十八日、藤原師長は後白川法皇を訪問した。

で次の項目まで入れる。 で次の項目まで入れる。 で次の項目まで入れる。 で次の項目まで入れる。。 で次の項目まで入れる。。 ので、法皇は「まるで夢のようである。(流罪の地では) と言う流行歌を自分が見て来たので「信濃に在りした納言は其れに従って「信濃に在るなる木曾路川」 大納言は其れに従って「信濃に在るなる木曾路川」 大納言は其れに従って「信濃に在るなる木曾路川」 と言う流行歌を自分が見て来たので「信濃に在りした。 を言う流行歌を自分が見て来たので「信濃に在りした。 なるが巻六が是で終わるの で次の項目まで入れる。

横田河原合戦(よこたがわらのかっせん)のこと

言われた。九月一日、藤原純友追討(平将門事件と同じ三年(九四〇)平将門を追討した際の例によるものとする大仁王会(だいにんおうえ)が行われた。是は天慶養和元年八月七日、太政官にて国家の平穏を祈願

充てられた。
る役所の次官でもある権大副(従五位・大中臣定高)が宮に奉納した。 勅使には大きな神宮の祭祀を担当す宮)の例として鉄兜(てつかぶと)と鉄製の鎧を伊勢神頃)の例として鉄兜(てつかぶと)と鉄製の鎧を伊勢神

僧)が行事の祈願所で急死したのである。三五大明王のうち、東方の兵乱の鎮定を受け持つ降三世担当の高行っていた降三世の大阿闍梨(こうざんせのだいあじゃり人調伏の為に五壇の法(密教で兵乱の鎮定を祈る修法)を人調伏の為に五壇の近くで死んでしまった。また謀叛ところが、彼は都を発って近江国甲賀の里で病気ところが、彼は都を発って近江国甲賀の里で病気

いない。私に何の罪がありますか!」と答えた。 で貰えないことなるのである。また、十六夜叉大彩の一神である大元帥明王を本尊として国家鎮護などの一神である大元帥明王を本尊として国家鎮護などの一神仏が朝敵を調伏せよ!と仰せになった。当えば「神仏が朝敵を調伏せよ!と仰せになった。当えば「神仏が朝敵を調伏せよ!と仰せになった。当れない。私に何の罪がありますか!」と答えた。 いない。私に何の罪がありますか!」と答えた。

周りの者は「此の法師は奇怪である。死罪か流罪周りの者は「此の法師は奇怪である。死罪が流れた。天皇が未た。後に源氏の世となり、源頼朝が此の事を聞いて、十二月二十四日、高倉天皇の中宮(清盛の娘・徳子)に十二月二十四日、高倉天皇の中宮(清盛の娘・徳子)に大二月二十四日、高倉天皇の中宮(清盛の娘・徳子)にである。を異礼流罪といる。死罪が流罪の者は「此の法師は奇怪である。死罪か流罪のである。

入したのである。星の世界のことであるから、どう空に異変があった。金星が昴星(スバル)の領域に侵年が明けて養和二年となり、二月二十一日には夜

位階を上げた。

四月十五日、顕真僧都が日枝神社で方式どおりに四月十五日、顕真僧都が日枝神社で方式とおりにいたのにようづ)と言う地位に任命されたけれども、それのしょうづ)と言う地位に任命されたけれども、それのたのだが、此の時に誰が言い出したのか「法皇の命令で比叡山の僧兵たちが平家を追討する!」と言命令が流れた。其の為に軍兵が内裏へ集まって四方う噂が流れた。其の為に軍兵が内裏へ集まって四方の門を警護した。

平家の者たちは六波羅(平家の本陣)へ駆け付けたの平家の者たちは六波羅(平家の本陣)へ駆け付けたので、本三位中将重衡(ほんざんみちゅうじょうしげひら=中で、本三位中将重衡(ほんざんみちゅうじょうしげひら=中で、本三位中将重衡(ほんざんみちゅうじょうしげひら=中で、本三位中将重衡(ほんざんみちゅうじょうしげひら=中で、本三位中将重衡(ほんざんみちゅうじょうしげひら=中で、本三位中将重衡(ほんざんみちゅうじょうしげひら=中で、本三位中将重衡(ほんざんみちゅうじょうしげひら=中で、本三位中将重衡(ほんざんみちゅうじょうしげひら=中で、本三位中将重衡(ほんざんみちゅうじょうしばいる)へ駆け付けたので、本三位中将重衡(平家の本陣)へ駆け付けたので、本三位中将重衡(いるための)へ駆け付けたので、本三位中将重像(平家の本陣)へ駆け付けたので、本三位中将重像(平家の本庫)へ駆け付けたので、本三位中将重像(平家の本庫)へ駆け付けたので、本三位中将重像(平家の本庫)へ駆け付けたので、本三位中将重像(平家の本庫)へ取け付けたので、本三位中将重像(平家の本庫)へ取りによりによります。

が、法皇は「この様な状態では寺社の参詣なども思路で後白河法皇を迎えて院の御所に送り届けたのだ中将重衡は騒動を鎮めるために比叡山に近い北陸

く根拠のない事で大騒ぎになった。も無く、平家が僧兵を討とうとしたのでも無い。全実際には比叡山の僧兵が平家を攻めようとしたのでうようには出来ないのであろうか…」と嘆かれた。

人々は「天魔の仕業であろう」と言い合った。

願の為である。

「天孫降臨系」・松尾大社(桓武天皇が京都の守護神とした出(天孫降臨系)・松尾大社(桓武天皇が京都の守護神とした出(天孫降臨系)・松尾大社(桓武天皇が京都の守護神とした出の月二十日、伊勢神宮・石清水八幡宮・賀茂神社

九月二日、城四郎長茂は木曾義仲を討つために越れ月二日、城四郎長茂は木曾義仲を討つために越れ月二日、城四郎長茂は木曾義仲を討っために越れ月二日、城四郎長茂は木曾義仲を討つために越ば(上田市南方)に居たのだが、其処を出て三千騎で四万の大軍を迎え討つことにした。木曾軍に加わって万の大軍を迎え討つことにした。木曾軍に加わって下の大軍を迎え討つことにした。木曾軍に加わって下の大軍を迎え討つことにした。木曾軍に加わって下の大軍を迎え討つことにした。木曾軍に加わって上に遭害が大軍を迎え討つことにした。木曾、大田市南方(長書は多いと見える」と喜び「これで合戦の勝負は決者は多いと見える」と喜び「これで合戦の勝負は決者は多いと見える」と喜び「これで合戦の勝負は決者は多いと見える」と喜び「これで合戦の勝負は決者は多いと見える」と喜び「これで合戦の勝負は決者は多いと見える」と書がよりには「大田が長」とは、四万余騎を率いて一気に関(とき)の声を発した。

も有ろう…どうしよう!」と慌てて平常心を失ったこの奇襲作戦には越後勢も慌てて「敵の数は十万

のである。

「大将軍の四郎は手傷を負い、たれてしまった上に、大将軍の四郎は手傷を負い、の山の太郎、会津の乗丹坊(城一族)なども簡単に討れてしまった。大将の城四郎が頼りにしていた越後或いは山道に詰められて谷に落ち、多くの者が討たがら四万騎も役に立たない。或いは川に追い込まれ、から四万騎も役に立たない。或いは川に追い込まれ、から四万騎も役に立たない。或いは川に追い込まれ、から四万騎も役に立たない。或いは川に追い込まれ、から四万騎も役に立たない。或いは川に追い込まれ、から四万騎も役に立たない。或いは川に追い込まれ、から四万騎も役に立たない。或いは川に追い込まれ、から四万騎も役に立たない。

形式的な行事を続けていた。それらの主役は内大臣の半宗盛が務めていた。正月六日、安徳天皇は仕事の平宗盛が務めていた。正月六日、安徳天皇は仕事の為に後白河法皇の御所へ出かけた。是は六歳盛が従一位になり、内大臣を辞した。是は治康盛が従一位になり、内大臣を辞した。是は治康盛が従一位になり、内大臣を辞した。是は治した。とれらの主役は内大臣をおいてある。

平家は天皇または法皇の名で諸国の武士団に「源氏いたのである。それを知らないのは平家だけであり、家に愛想を尽かして源氏に心を寄せるようになって僧兵から伊勢神宮の神官団まで、そのほとんどが平その頃、奈良や比叡山の僧兵たち、熊野・吉野の

は、それを知らない。と無視しており、従う者も無い状態であった。平家と無視しており、従う者も無い状態であった。平家は心得て居て「是は平家の命令書であろうから…」を討て」と命令していたけれども、祖国の武士たち

次からは平家物語も巻七に入り、源氏が攻め寄せ、次からは平家物語も巻七に入り、源氏の代表を自負と言っても木曾義仲の軍であり、源氏の代表を自負と言っても木曾義仲の軍であり、源氏の代表を自負と言っても木曾義仲の軍であり、源氏が攻め寄せる源頼朝には平家物語も巻七に入り、源氏が攻め寄せ

交渉を提案して拒否されている。

苦境に立たされた木曾義仲は、苦し紛れであろう

苦境に立たされた木曾義仲は、苦し紛れであろう

苦境に立たされた木曾義仲は、苦し紛れであろう

河法皇が怪しい目でジッと見ている。 熾烈な争いを展開するのである。それを曲者の後白ち目ではあるが天下を握っていた平家、此の三者が汚髯経、強いけれども世間を知らない木曾義仲、落海義経、強いけれども世間を知らない木曾義仲、落

(巻第六終り)

#### 編集事務局

版0299-24-2063 石岡市石岡13979-2

(白井啓治方)

http://www.furusato-kaze.com/

#### ふるさと風の会会員募集中!!

当会では、「ふるさと(霞ヶ浦を中心とした周辺地域)の歴史・文化の再発見と創造を考える」仲間達を募集しております。

自分達の住む国の暮らしと文化について真面目に考え、声高くふるさとを語り、考える方々の入会をお待ちしております。

会の集まりは、月初めに会報作りを兼ねた懇親会と月末に雑談:勉強会を行っております。

○会費は月額 2,000 円。(会報印刷等の諸経費)

※入会に関するお問い合わせは下記会員まで。

白井 啓治 0299-24-2063 打田 昇三 0299-22-4400 兼平智惠子 0299-26-7178 伊東 弓子 0299-26-1659

#### 「ことば座団員」& 「朗読教室生徒」 募集!!

#### 劇団員の募集

ことば座は、霞ヶ浦を中心とした「ふる里物語」を朗読手話舞と朗読劇に表現する劇団です。 ことば座では、スタッフ部門・俳優部門の団員を募集しています。

ふる里劇団に興味をお持ちの方の連絡をお待ちしています。

#### 朗読教室生の募集

朗読とは、物語を読み聞かせるのではなく、声に劇しく(はげしく)心を演じることを言います。何かで自分表現をしたいと考えておられる方、朗読による自分表現を考えてみませんか。 演劇表現としての朗読の基礎を学び、朗読で自分表現を、また朗読で「ふる里の歴史・文化」をつたえて行きたいとの思いのある方、連絡をお待ちしております。

月1回コース(受講料: ¥6000円) 2回コース(受講料: ¥9000円)

連絡先 080-3125-1307(白井)

(ことば座公演より「朗読手話舞」)



